



ほかにはない
アンサーを。

オリックス株式会社

2021年3月期第2四半期 決算説明会

取締役兼代表執行役社長 グループCEO 井上 亮

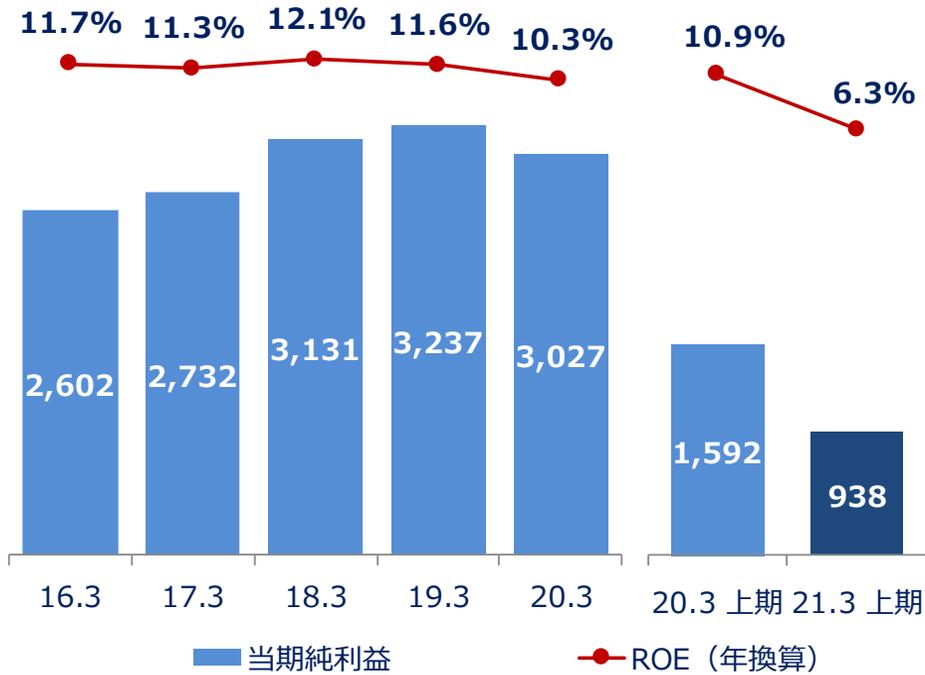
2020年11月2日

業績総括 上期の当期純利益/ROE

- ✓ 当期純利益は 938億円（前年同期比▲41.0%）、ROE（年換算）は 6.3%
- ✓ セグメント利益は 1,495億円（前年同期比▲38.0%）

当期純利益*とROE

(億円)



ご参考:過去の四半期ROE



*「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します

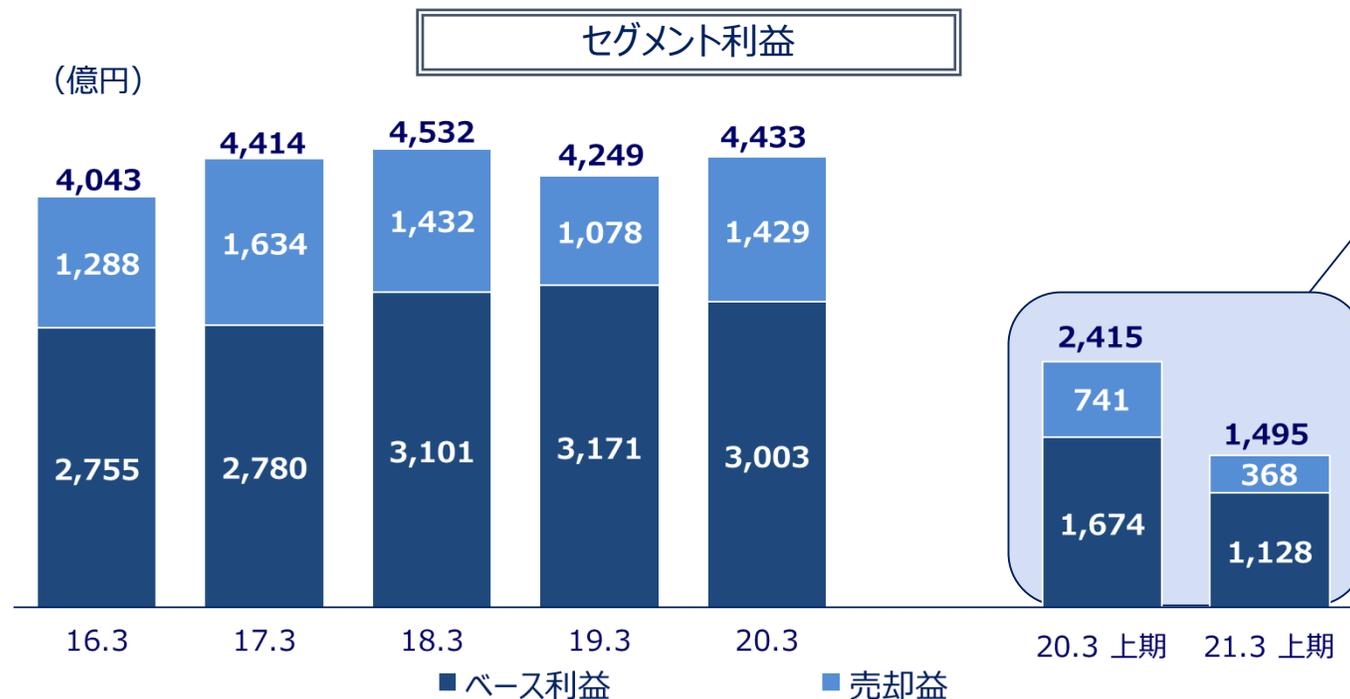
21.3期上期
セグメント利益
1,495億円
前年同期比
▲38.0%
(▲920億円)

うち
ベース利益

1,128億円 前年同期比▲33% (▲546億円)
不動産（運営）、コンセッション、航空機リースが減益
一方で、コロナ禍においても、環境エネルギー、生命保険、銀行・クレジットは堅調

うち
売却益*

368億円 前年同期比▲50% (▲373億円)
前年同期より減少したものの、好調なマーケットを捉え2つの物流施設を売却するなど、一定水準を確保



*主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など

業績総括 新型コロナウイルスの影響



✓ 航空機リース、空港コンセッションは1Q比影響が拡大したが、その他は回復基調

(セグメント利益ベース)

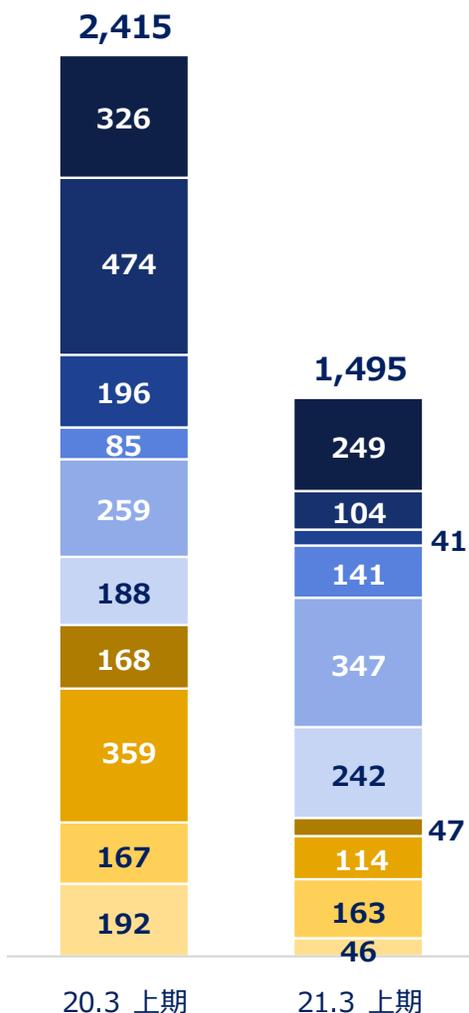
項目	状況（1Qとの比較）	影響額(1Q)	影響額(2Q)
① 不動産（運営）	Go to Travelキャンペーンの後押しもあり、最悪期は脱した	▲60億円	▲30億円
② 航空機リース	リース料収入、売却益の減少に加え、Avolonの発注機のキャンセルに伴う支払利息の費用化等の一時的要因もあり（1Qは社債の買入償却益もあり）	▲50億円	▲120億円
③ 空港コンセッション	実績を3ヶ月遅れで取り込んでいるため、2Qの方が悪化（1Qは1月～3月分を取込み、2Qは4月～6月分を取込み）	▲40億円	▲90億円
④ 法人営業・メンテナンスリース	レンタカー部門の利益は復調（1Qは赤字、2Qは黒字） 法人営業の手数料収入も回復	▲50億円	▲20億円
⑤ ORIX USA	1Qにエネルギー資産を中心に計上した信用損失費用が2Qは縮小。また、ファンド評価損益も改善。OREC*のオリジネーションフィー増加	▲90億円	▲10億円
⑥ その他（保険等）	1Qは、旧ハートフォード生命の責任準備金戻入益を計上したが、2Qは戻入益なし	+50億円	0億円
上記合計		約▲240億円	約▲270億円

*OREC (ORIX Real Estate Capital Holdings)の主な事業:商業用不動産ローン組成・サービシング

セグメント業績 セグメント利益

セグメント利益 (億円)

(億円)

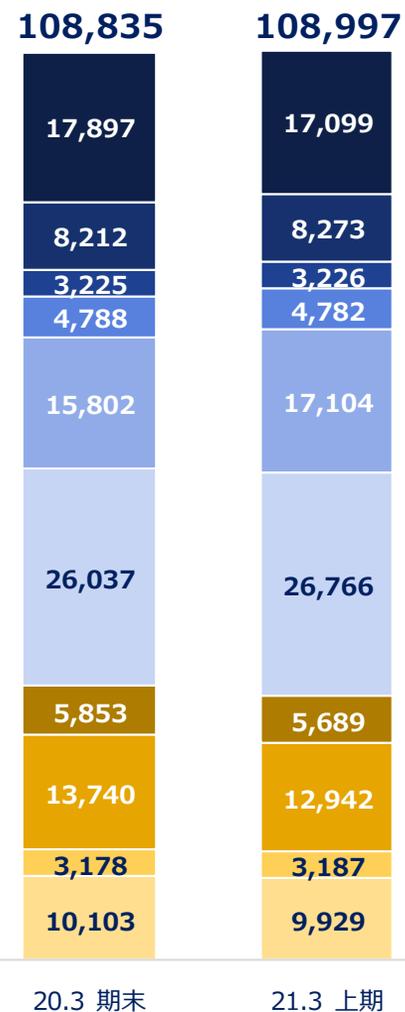


	1Q	2Q	前Q比	上期	前年同期比	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	102	147	45	249	▲ 76	レンタカー売上回復、および、法人営業の手数料増加により、前Q比増益
2 不動産	15	88	73	104	▲ 371	宿泊施設が順次再開し、前Q比増益
3 事業投資・コンセッション	45	▲ 4	▲ 49	41	▲ 156	コンセッションは、3か月ラグあり、前Q比で減益 (現時点では、国際線の回復は鈍いが、国内線は回復基調)
4 環境エネルギー	81	60	▲ 21	141	56	コロナ影響は軽微。堅調に推移
5 保険	180	168	▲ 12	347	88	コロナ影響下では、非対面募集が伸長
6 銀行・クレジット	115	128	13	242	55	銀行・クレジットともに堅調に推移
7 輸送機器	73	▲ 26	▲ 99	47	▲ 121	リース料収入、売却益の減少に加え、Avolonからの取込利益も減少
8 ORIX USA	2	112	109	114	▲ 245	信用損失費用の縮小及びファンドの評価損益の改善により、前Q比大幅に増益
9 ORIX Europe	67	96	28	163	▲ 4	AUMの回復により、前Q比増益
10 アジア・豪州	74	▲ 28	▲ 101	46	▲ 146	中国のPE投資先に対して減損を2Qに計上
合計	754	741	▲ 13	1,495	▲ 920	—

セグメント業績 セグメント資産

セグメント資産 (億円)

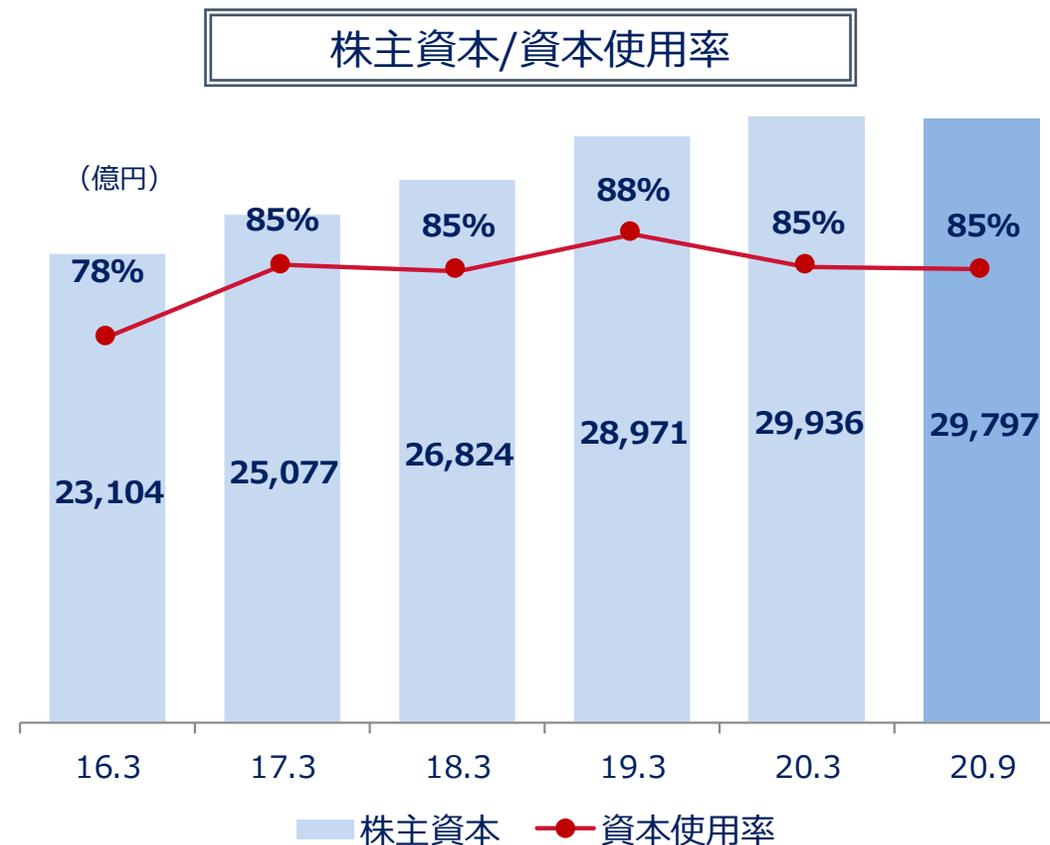
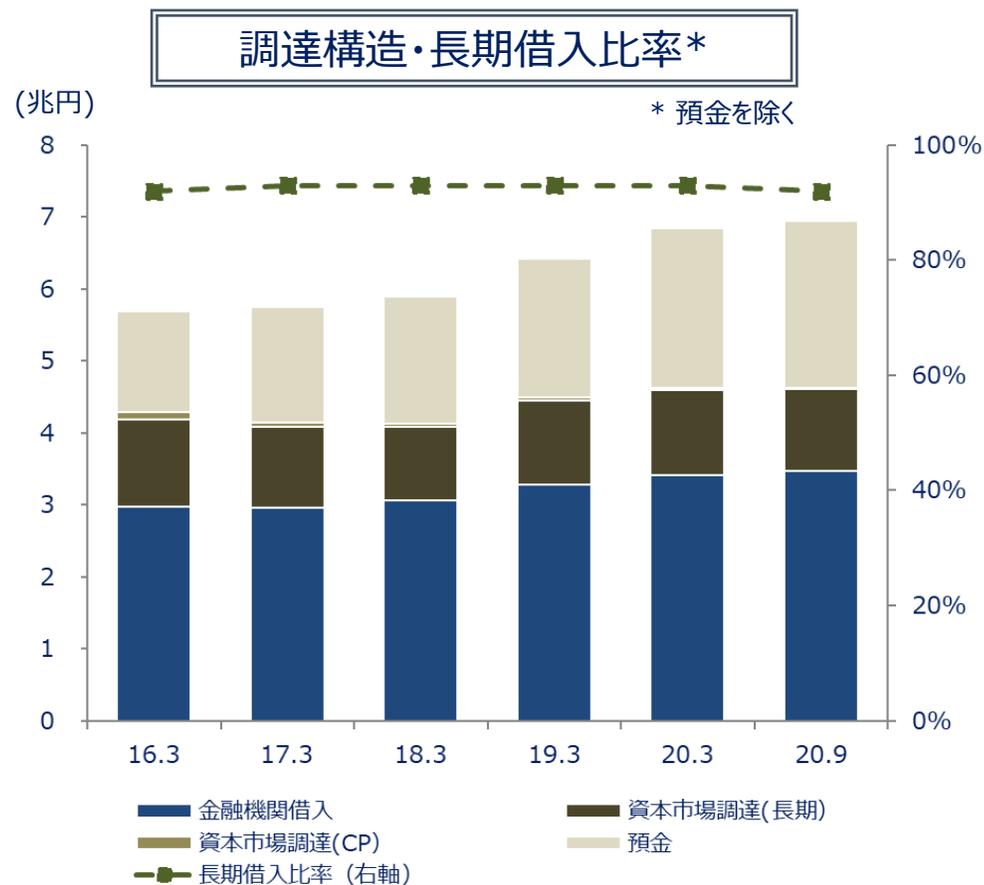
(億円)



	21.3 上期	前期末比	ROA (年換算・税引後)	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	17,099	▲ 798	2.0%	金融資産が緩やかに減少
2 不動産	8,273	61	1.7%	—
3 事業投資・コンセッション	3,226	1	1.7%	—
4 環境エネルギー	4,782	▲ 6	4.1%	—
5 保険	17,104	1,303	2.9%	新規契約の増加に伴う、投資有価証券の増加
6 銀行・クレジット	26,766	729	1.3%	銀行の貸付金残高が増加
7 輸送機器	5,689	▲ 164	1.1%	大半が為替影響
8 ORIX USA	12,942	▲ 798	1.2%	営業貸付金が減少、為替影響もあり
9 ORIX Europe	3,187	8	7.0%	—
10 アジア・豪州	9,929	▲ 173	0.6%	—
合計	108,997	161	1.7%	—

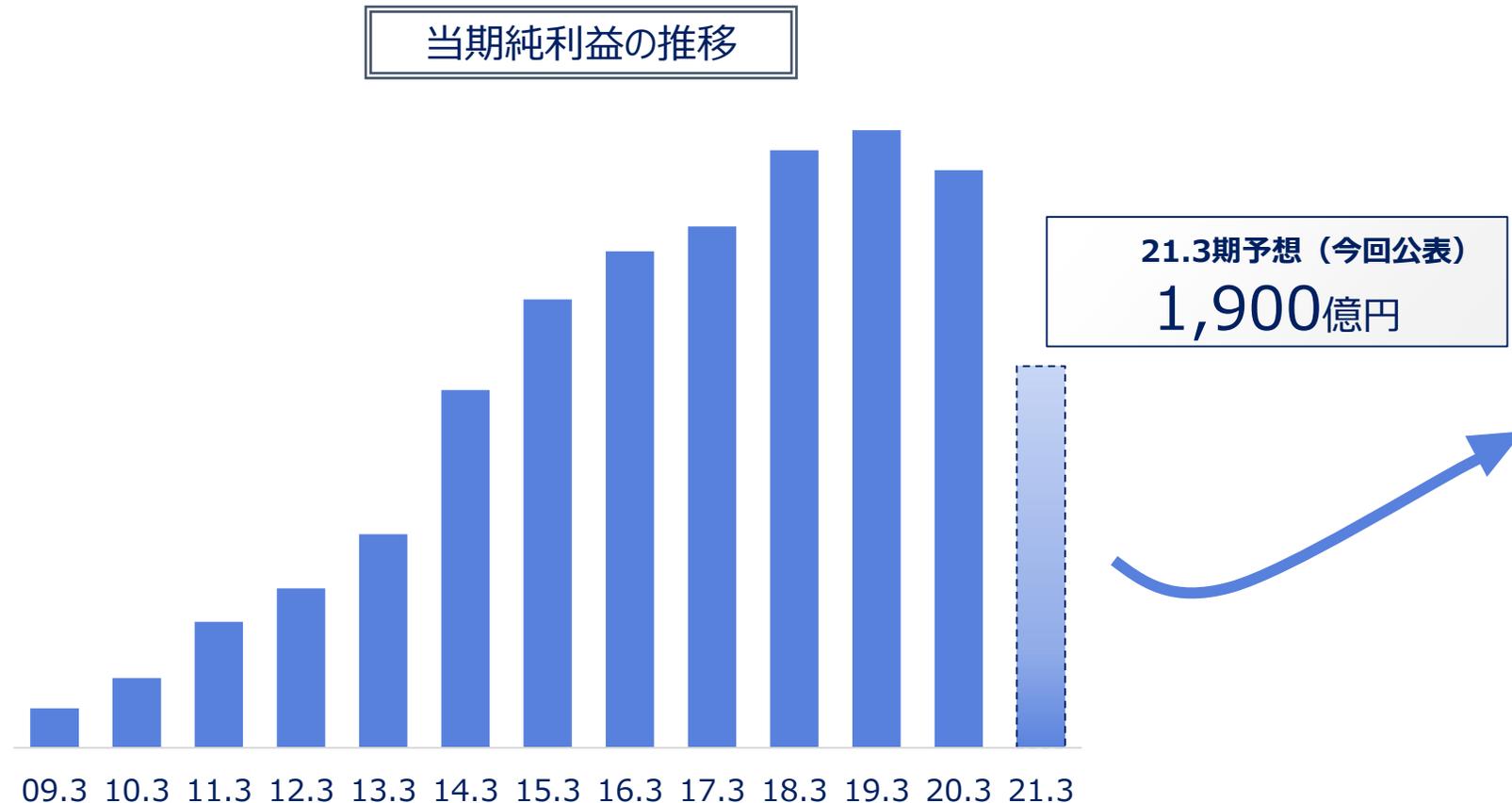
財務健全性 資金調達構造/株主資本使用率

- ✓ 資金調達構造 : 資金調達手法を多様化、高い長期借入比率を維持
- ✓ 株主資本使用率 : オリックスの株主資本に対して、どれほど資本を使用しているかを示す比率
引き続き、リスク/リターンをコントロールしつつ成長を目指す



今期の業績見通し/株主還元について

- ✓ 21.3期の当期純利益は、**1,900億円を予想**。コロナの影響を受けるも、安定的な収益を計上
- ✓ 今期の通期配当額は、一株当たり76円もしくは配当性向50%、いずれか高い方
- ✓ 昨年度決定した自社株買い（1,000億円の未消化分442億円）の再開



格付/手元流動性

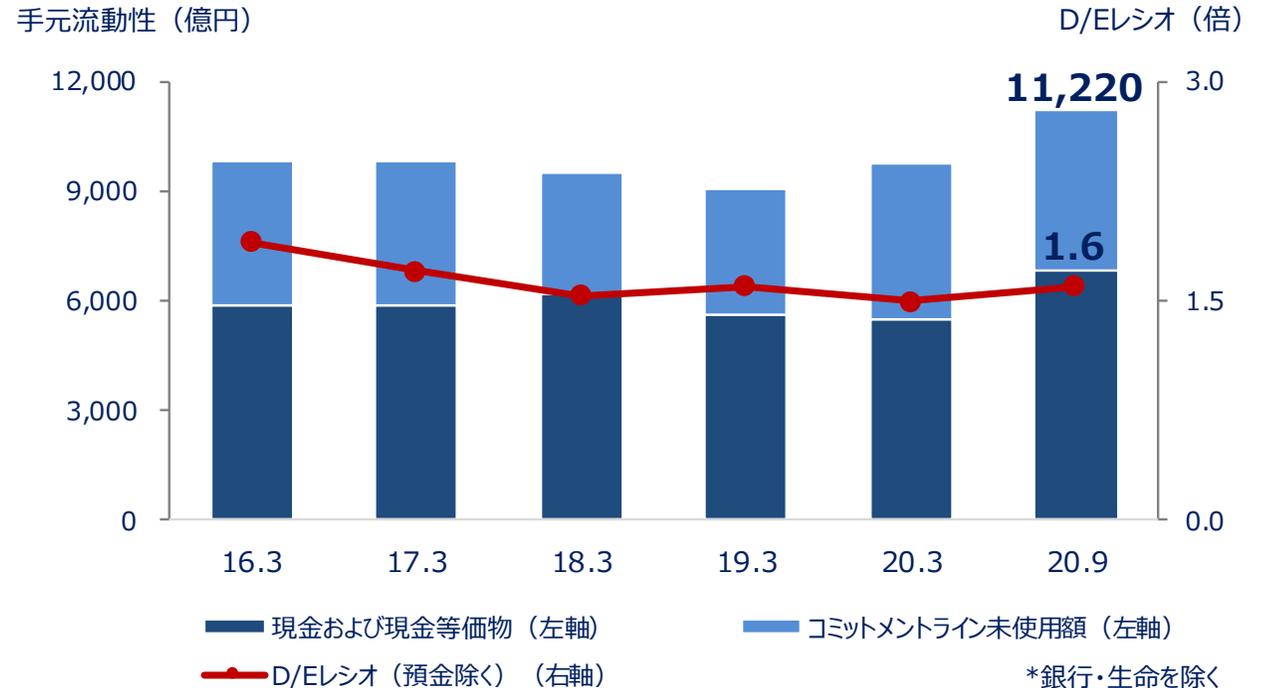
- ✓ S&P、Moody's、FitchすべてA-を維持。R&IはAA-
- ✓ M&Aや資産の入れ替えによって、より強靱なポートフォリオの構築を目指す
- ✓ 投資や売却のタイミング次第では、格付が変動する可能性は有るが、中長期的にはA格に相応しい財務基盤を維持

格付

(2020年9月末時点)

格付一覧	
S&P	A- (ネガティブ)
Moody's	A3 (ネガティブ)
Fitch	A- (ネガティブ)
R&I	AA- (安定的)

手元流動性*・D/Eレシオ



新型コロナウイルスへの対応（1）運営、コンセッション、MICE-IR他

- ✓ 不動産の運営事業をはじめ、空港コンセッションも回復基調
- ✓ MICE-IRについて、基本的な方針に変更はなし

事業部門	足もとの状況、対応
不動産運営	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 緊急事態宣言下は全施設クローズ。現時点では、1施設を除き全施設再稼働 ✓ Go to Travelキャンペーンの後押しもあり、最悪期は脱した 旅館：4月 9%→10月 78% ホテル（自社運営）：4月 3%→10月 38% （10月データは見込）
コンセッション （関西エアポート）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際線の回復は鈍いが、国内線の9月の便数は3空港ともに前年の6割まで回復 ✓ 国際貨物便も、9月は便数が前年より75%増加
MICE-IR	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域認定の日程が9ヶ月先延ばしとなり、本格的な検証作業は来年以降 ✓ 基本的な方針に変更はないが、コロナの影響分析を加味した上、対応していく
上記以外	<ul style="list-style-type: none"> ✓ レンタカー部門の利益は復調（1Qは赤字、2Qは黒字確保）、個人向けカーシェアも堅調に推移 ✓ ORIX Europeのアセマネ事業のAUM回復（20.3末 €232.8bil→20.6末 €255.2bil→20.9末 €259.9bil）

新型コロナウイルスへの対応（2）航空機リース事業

- ✓ オリックスは40年以上の経験・ノウハウを生かし、最大限の努力を継続

	足元の状況、対応
オリックス 航空機リース事業	<ul style="list-style-type: none">・市場の変動幅が比較的小さいNarrow Bodyの比率が85%・1Qにレッシーからリース料の繰延要請を受諾したが、多くが支払を再開・レッシーは、フラッグシップキャリアが中心・現時点で、減損は必要ない
Avolon (オリックス出資比率：30%)	<ul style="list-style-type: none">・発注機数は、19年12月末時点の400機から、20年9月末時点では286機と大きく削減・2022年までに完成される機体は、全てリース先を確保・2020年9月、USD650milの無担保社債を発行・調達環境の改善に合わせて手元流動性確保を進め、格付も引き続きBBB格を維持

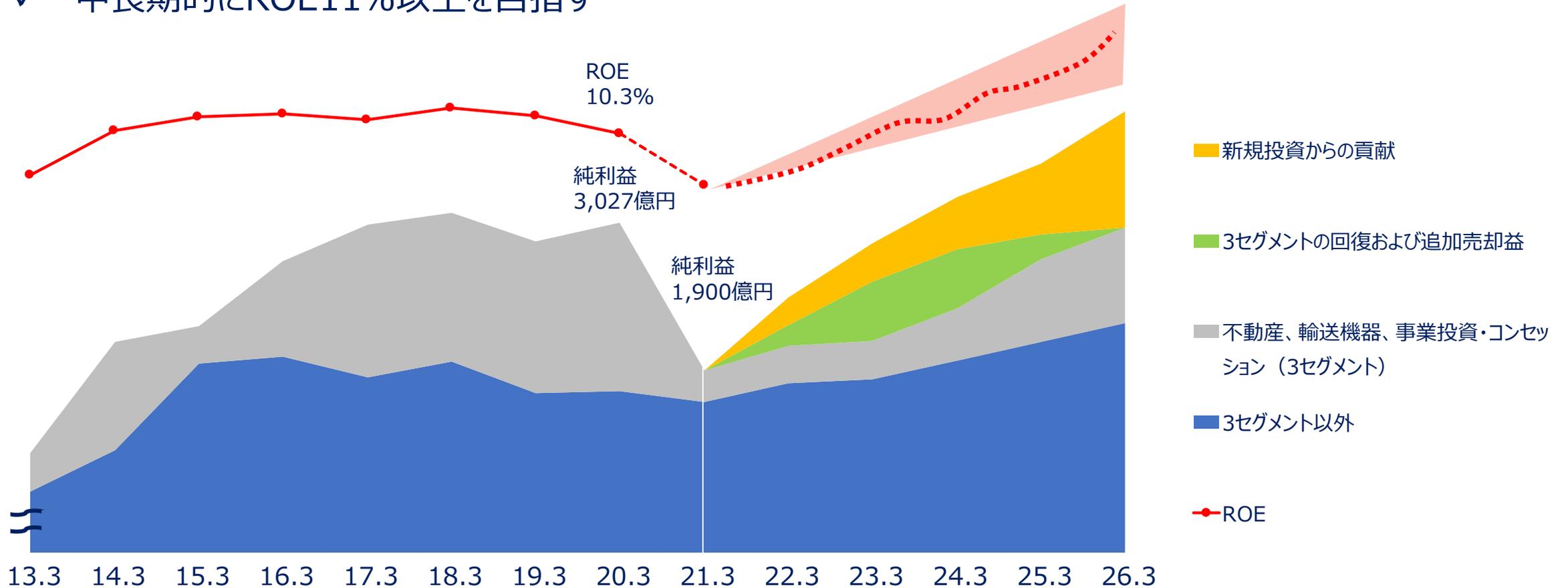
✓ 約2,000億円の新規投資を発表

分野	社名	概要
環境エネルギー	Greenko Energy	インドの大手再生可能エネルギー事業者 (稼働済施設：4.4GW、開発中：8GW)
アセットマネジメント	Boston Capital	米国の大手LIHTCシンジケーター (米国の不動産関連のAUMが業界トップクラスの規模に拡大)
プライベートエクイティ投資	APRESIA Systems	日本のネットワーク機器メーカー (ウィズコロナ、アフターコロナ時代にDX投資を拡大)
	同仁医薬化工	日本の医薬品の製造・販売 (20.3期には、小林化工を買収。ヘルスケアは重点投資分野)
	農夫山泉	中国最大の飲料水メーカー (中国市場の高い成長の取り込み)

上記の他に、1.5兆円以上のパイプラインを確保。デューデリジェンス後、順次発表していく予定

今期以降の見通し

- ✓ 資産の入れ替え、新規投資により、早期に当期純利益3,000億円へ回復、中長期的に4,000億円、5,000億円を目指す
- ✓ 中長期的にROE11%以上を目指す



- ✓ 2020年10月、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同を表明



- (1) オリックスにとって、持続的な成長のために、気候変動への対応は重要課題として認識
- (2) 幅広い事業の中から優先対応すべき事業を選んだ上で、気候変動に関するリスクと機会を特定
- (3) そこから得られた情報を分析・活用することにより将来の成長へと繋げていく

時期	サステナビリティ推進活動
2019/7	経営計画部内にサステナビリティ推進チームを設置
2019/9	オリックスグループ サステナビリティポリシー、サステナブル投融資ポリシーを策定
2020/1	グリーンボンド（無担保普通社債）発行
2020/10	TCFDへの賛同、TCFDコンソーシアムへの加盟

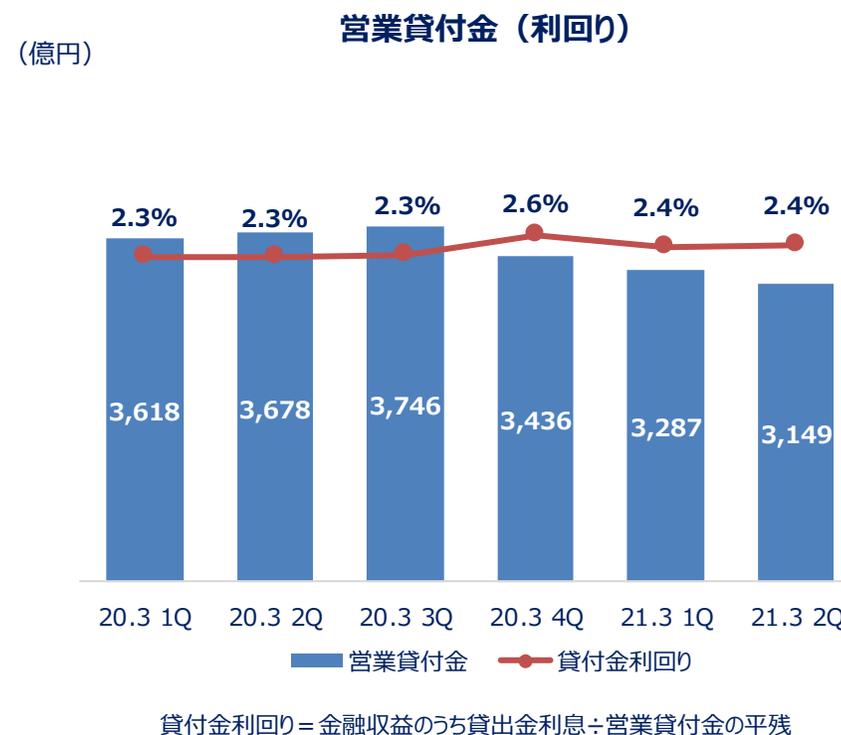
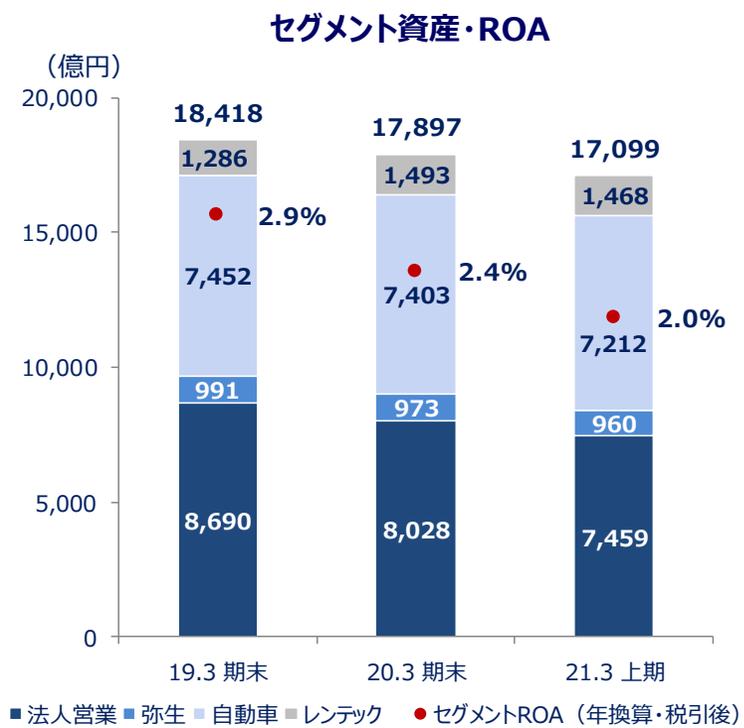
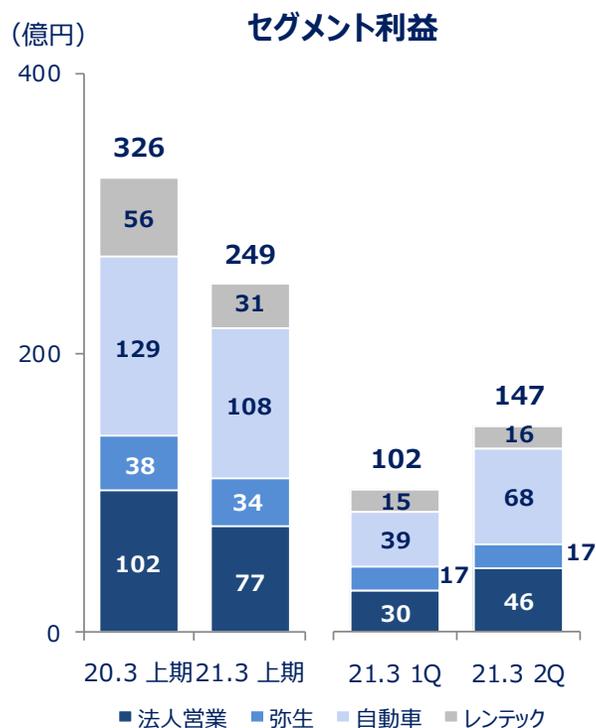
セグメント実績

(空白)

セグメント別実績 (1) 法人営業・メンテナンスリース

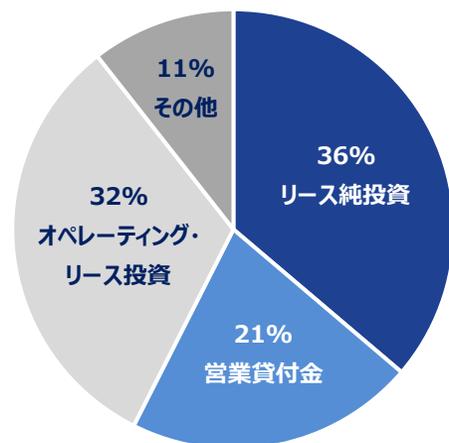
*1億円未満を四捨五入して表示しているため、各ビジネスユニットの合計値は、必ずしもセグメント数値とは合致しません

上期セグメント利益：249億円	前年同期比 ▲76億円 (▲23%)	セグメント資産：17,099億円	前期末比 ▲798億円 (▲4%)
✓ 法人営業は、手数料収入が回復し、前Q比+16億円 ✓ 自動車は、レンタカー需要や中古車市場が回復基調。前Q比+29億円 ✓ レンテックは、1Qに稼働を抑制していた技術センターの稼働率が回復		✓ 金融資産が緩やかに減少	

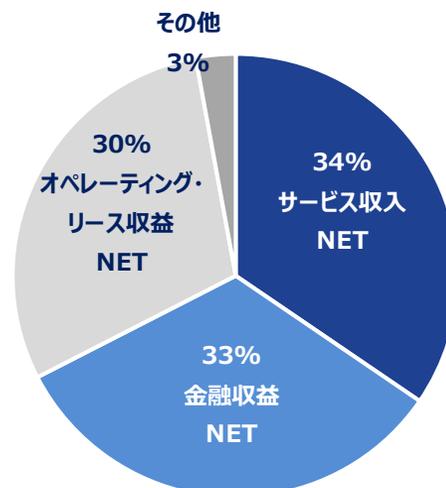


セグメント事業内容：金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・I T 関連機器などのリースおよびレンタル、弥生

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET*（20.3期）



*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

幅広い商品・サービスを提供



セグメント別実績 (2) 不動産

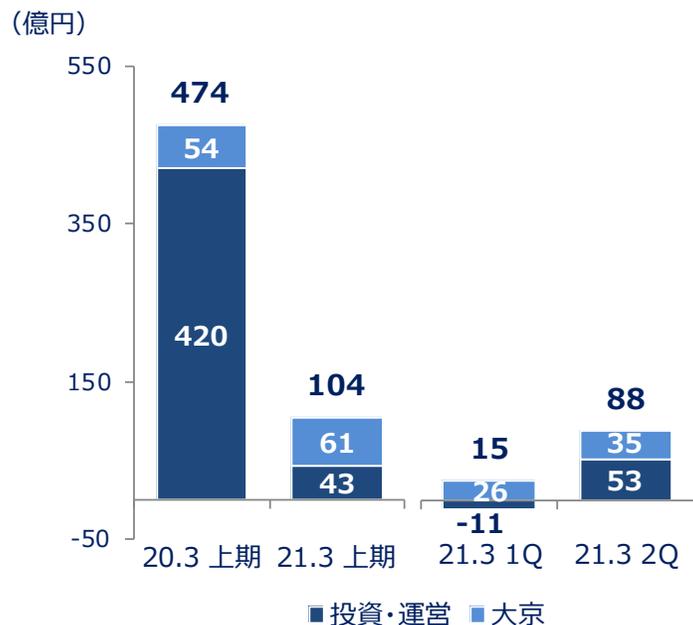
上期セグメント利益：104億円 前年同期比 ▲371億円 (▲78%)

- ✓ 投資・運営は、宿泊施設の営業再開により前Q比増益
また、2Qに好調なマーケットを捉え、2つの物流施設を売却
- ✓ 大京のマンション事業は堅調に推移

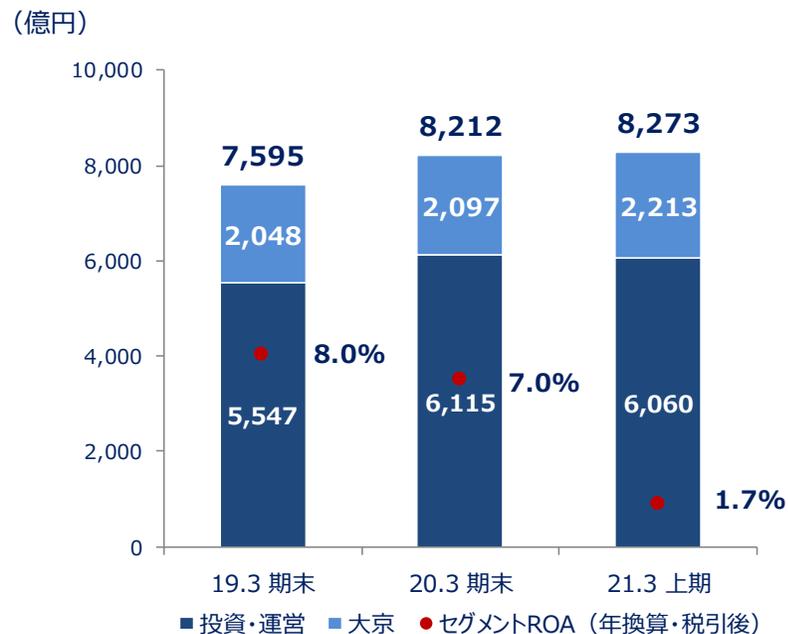
セグメント資産：8,273億円 前期末比 +61億円 (+1%)

- ✓ 全体として、資産は横ばい
- ✓ 不動産のアセットマネジメントにおけるAUMは順調に増加

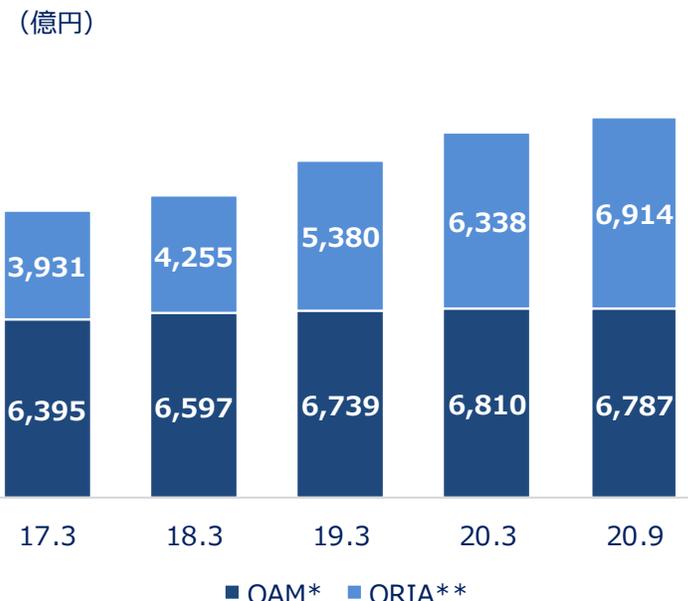
セグメント利益



セグメント資産・ROA



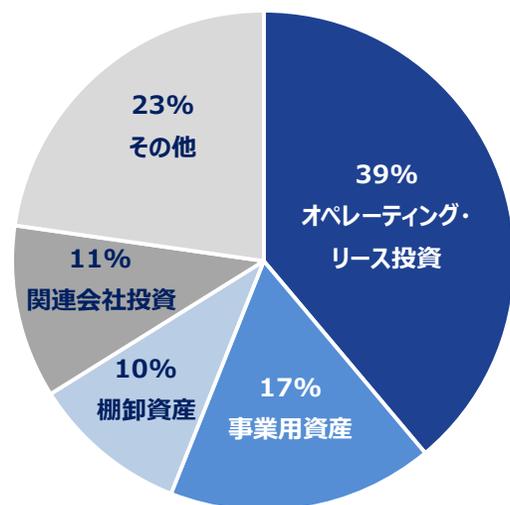
AUMの推移



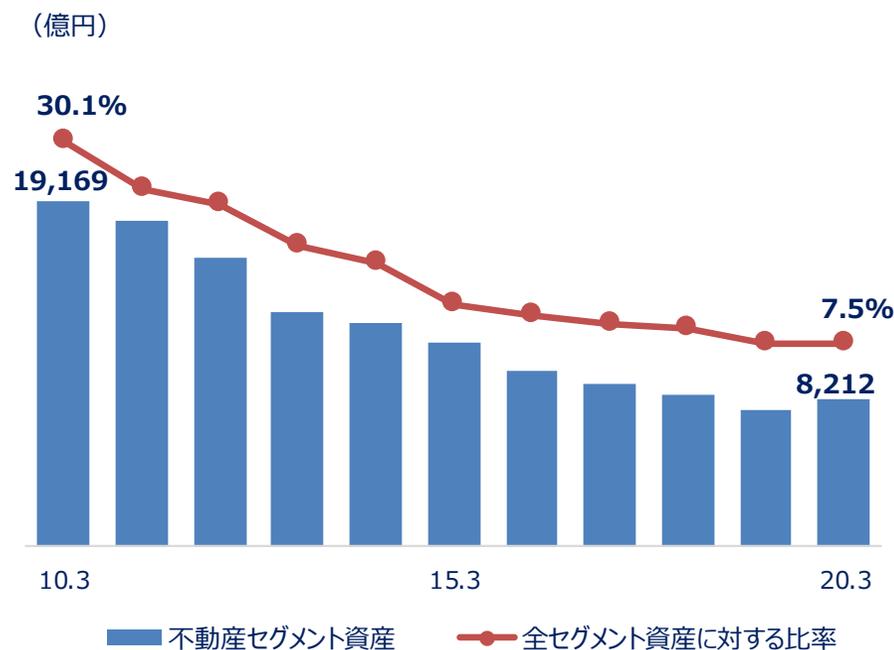
* オリックス・アセットマネジメント(株) (J-REIT) 毎年2月末および8月末時点の期末残高を同年3月末および9月末として掲載
** オリックス不動産投資顧問(株) (私募ファンド)

セグメント事業内容：不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント

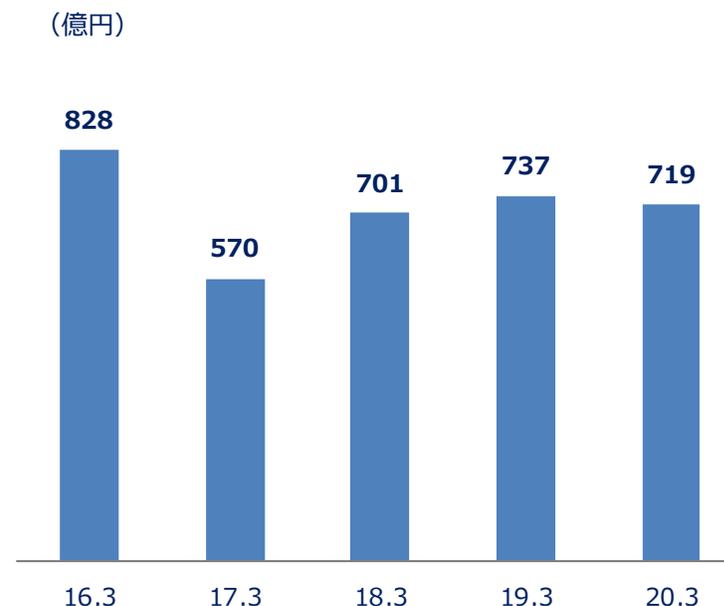
セグメント資産（20.3期末）



セグメント資産の推移



賃貸不動産の含み益*



*不動産以外のセグメントの賃貸不動産も含む
運営事業の資産は含まない

セグメント別実績 (3) 事業投資・コンセッション

上期セグメント利益：41億円 前年同期比 ▲156億円 (▲79%)

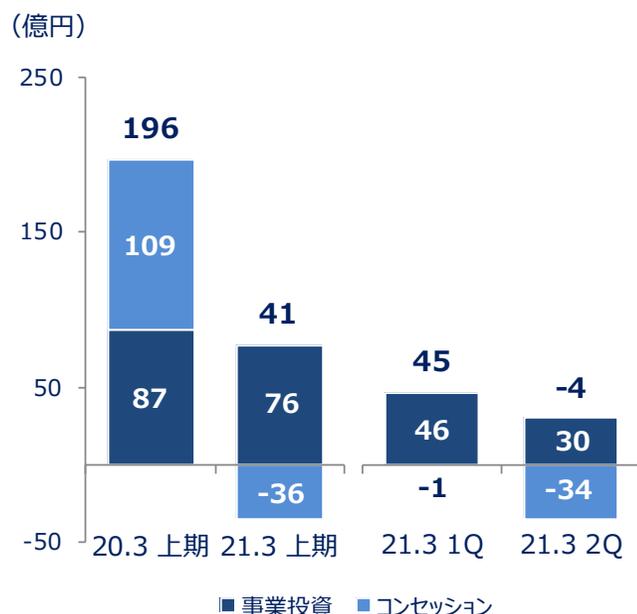
- ✓ 投資先からの取込利益は堅調に推移
(一部の投資先の利益計上が1Q偏重のため、前Q比では若干減益)
- ✓ コンセッションは、4～6月実績を3ヶ月遅れで取込
(現時点では国際線の回復は鈍いが、国内線は回復傾向)

セグメント資産：3,226億円 前期末比 +1億円 (横ばい)

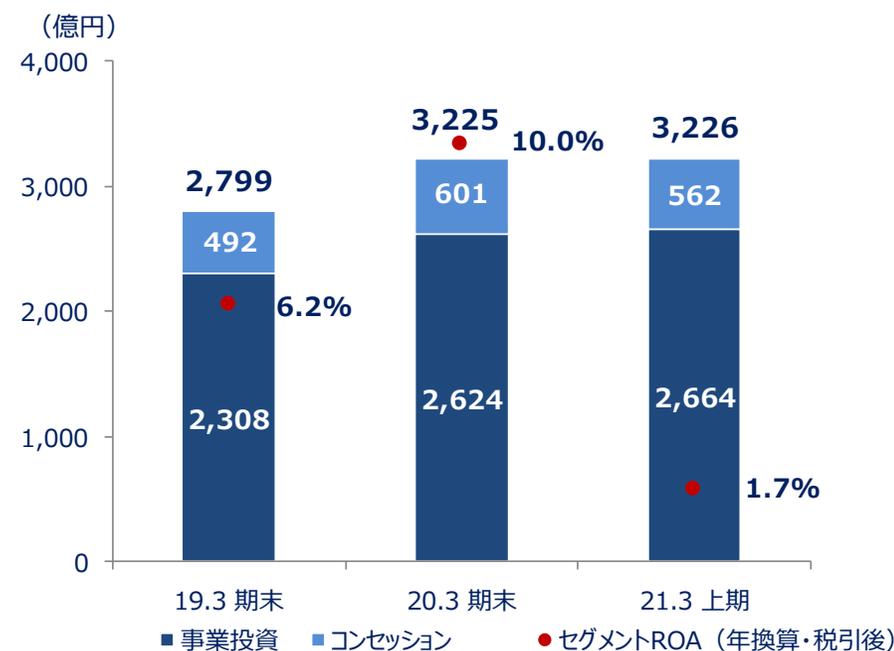
- ✓ 国内PE投資では、1Qに1件新規投資を実施*1
また、3Qに1件実施予定*2。EXITはなし
- ✓ コンセッションは、横ばい

*1: 同仁医薬化工 (医薬品の製造・販売)
*2: APRESIA Systems (ネットワーク機器メーカー)

セグメント利益



セグメント資産・ROA



- ✓ 事業投資の投資先は14件（2020年9月末時点）。オリックスグループの新たなビジネス・セグメントの構築を目指す

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企業 に注力 (EV：数百億円)	1件あたり 3年～5年以上
実行案件数 (2012年以降)	投資実績
23件	IRR 30% 2012年以降の投資案件 (8件)のEXITの平均値

事業投資の特徴

資金力のみならず、幅広い業種における事業運営ノウハウを有する。対象会社のバリューアップを図りつつ、投資期間・投資形態に柔軟性をもつ

フレキシビリティ	PEファンドとは異なり自己資金での投資のため、柔軟な投資期間・投資形態が可能
実践的な支援	経営支援のための人材を送り込み、オリックスグループのネットワークを生かして事業成長のためにコワークする等、投資先企業と本質的な「パートナーシップ」を構築
シナジー	オリックスグループは、日本において強力な国内法人営業ネットワークを有する。多角的な事業ポートフォリオに携わり、投資活動を通してシナジー効果を生み出す
注力分野	社会的課題の解決に資する、かつ成長が期待できる産業に着目し、ヘルスケア、物流・レンタル、IT・情報サービス、酪農等の産業に関しては重点的に投資を積み上げていく。注力分野では長期的な保有も行き、拡張性を追求すべくロールアップ等を積極的に行い、投資先間のシナジーも追及する

セグメント別実績 (4) 環境エネルギー

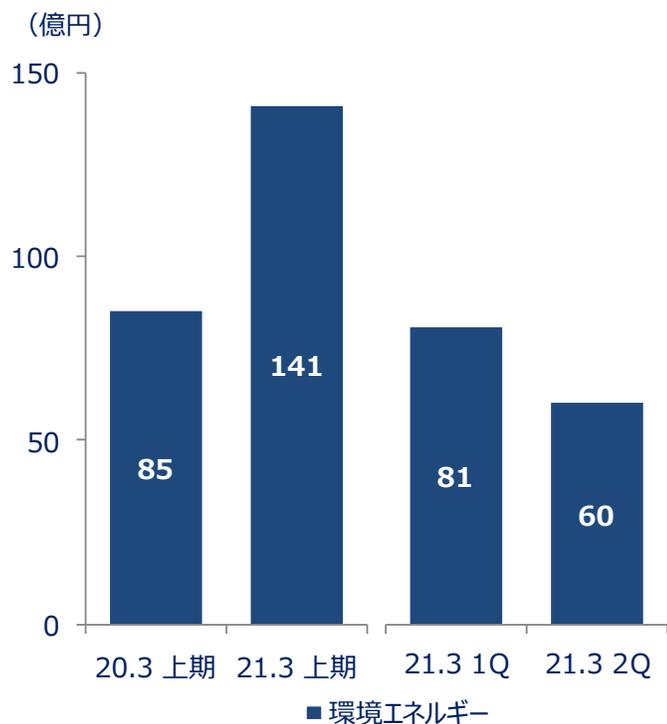
上期セグメント利益：141億円 前年同期比 +56億円 (+66%)

- ✓ コロナ禍においても、堅調に推移
- ✓ 1Qはインド風力事業の評価益を計上

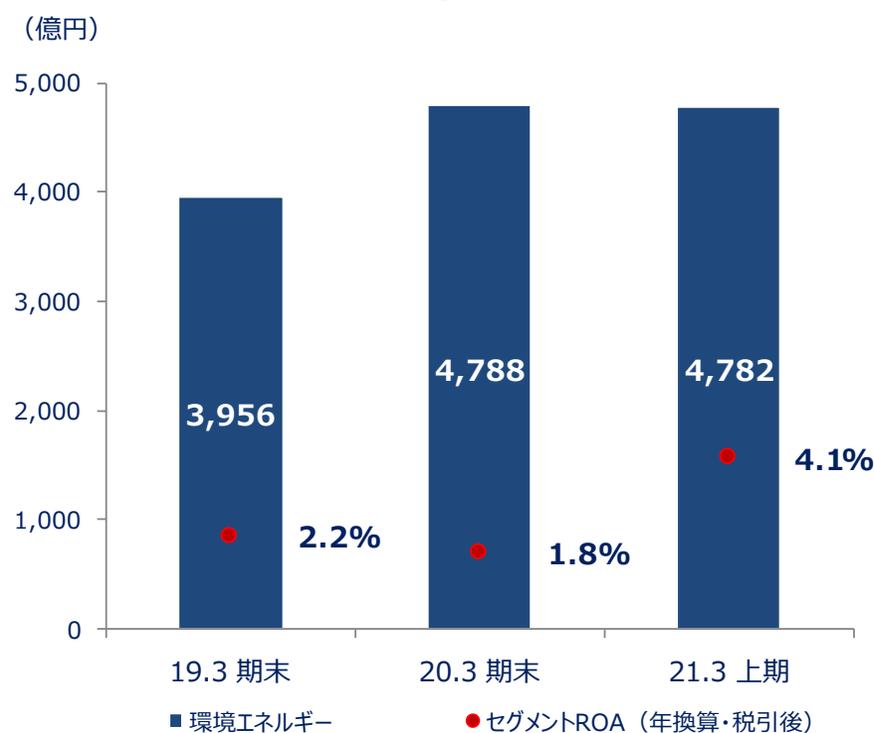
セグメント資産：4,782億円 前期末比 ▲6億円 (横ばい)

- ✓ 資産は横ばい
- ✓ Greenko Energyの発行済株式20%超の取得につき基本合意 (年内に本契約ならびに株式取得手続きの合意を目指す)

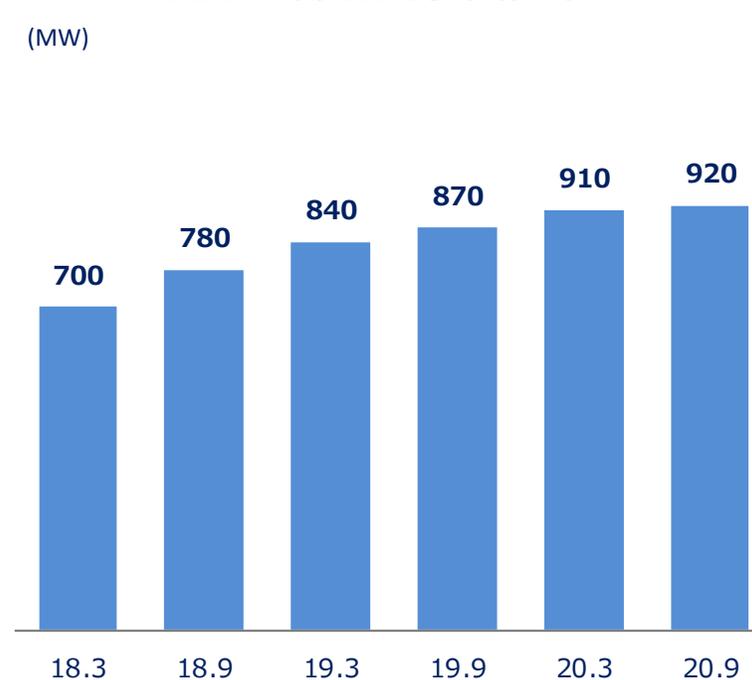
セグメント利益



セグメント資産・ROA



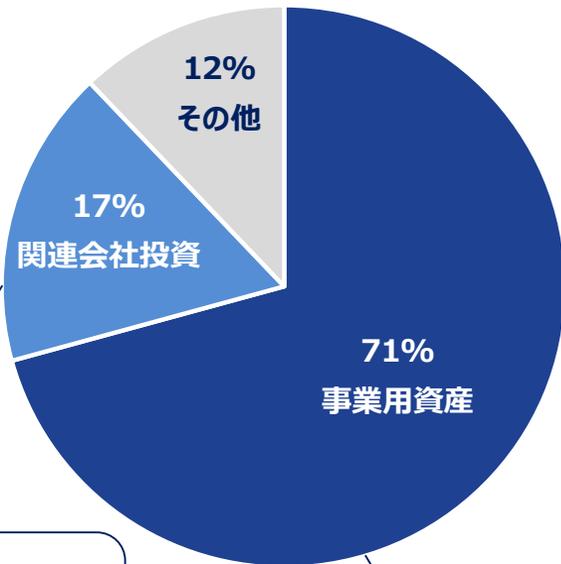
国内の太陽光発電事業 稼働状況



セグメント事業内容：国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理

(2020年9月末時点)

セグメント資産 (20.3期末)



主に、
 ・Ormat Technologies, Inc.
 ・Bitexco Power Corporation

主に、
 ・国内外再生可能エネルギー
 ex.インド風力発電事業

海外の主な投資先 (再生可能エネルギー)

投資先	地域	事業内容	設備容量*	持分比率
Ormat Technologies, Inc.	米国	地熱発電	914MW	21%
風力発電事業	インド	風力発電	873MW	100%
Bitexco Power Corporation	ベトナム	水力発電 および 太陽光発電	895MW	6%

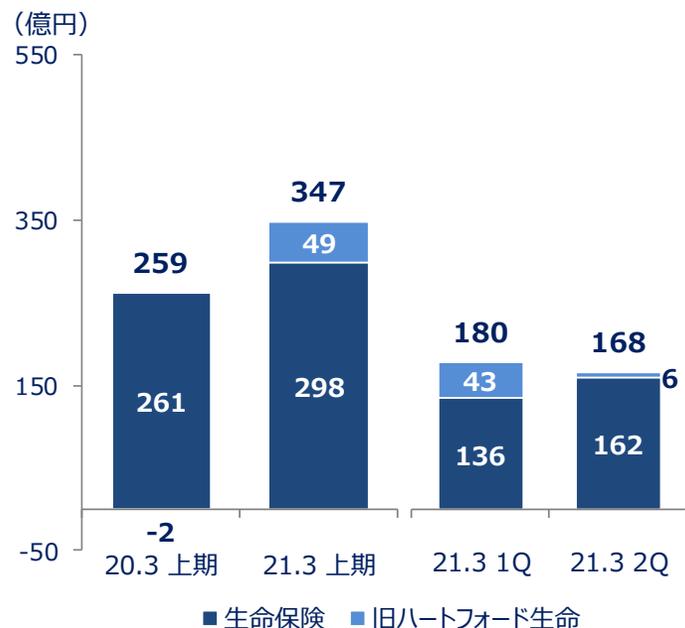
*設備容量は、持分比率考慮せず

インドの大手再生可能エネルギー事業、Greenko Energyへの統合を基本合意
 年内に本契約ならびに株式取得手続の合意を目指す

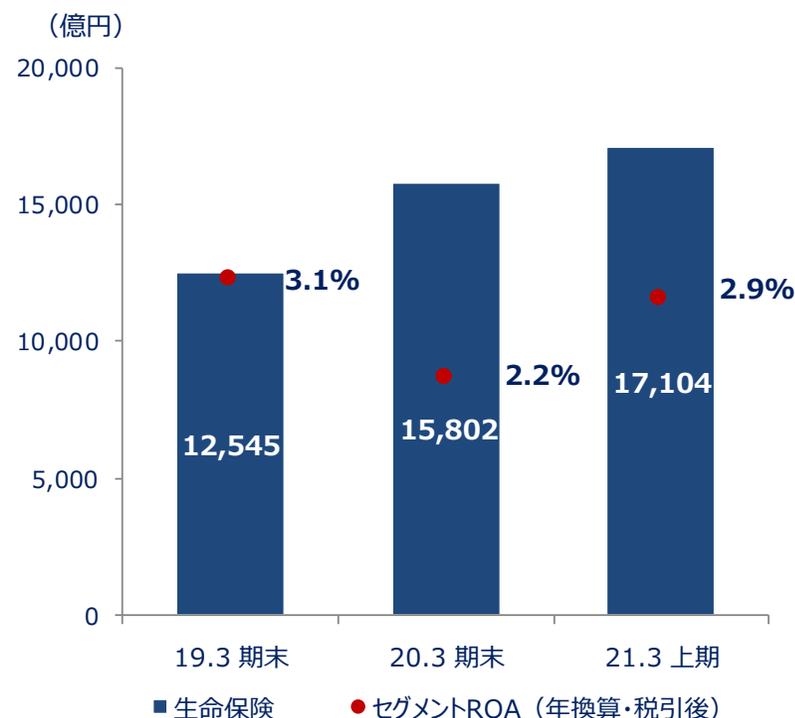
セグメント別実績 (5) 保険

上期セグメント利益 : 347億円	前年同期比 +88億円 (+34%)	セグメント資産 : 17,104億円	前期末比 +1,303億円 (+8%)
✓ コロナ禍でも安定した利益を計上 ✓ 非対面募集が伸長		✓ 生命保険の資産運用で、投資有価証券が増加	

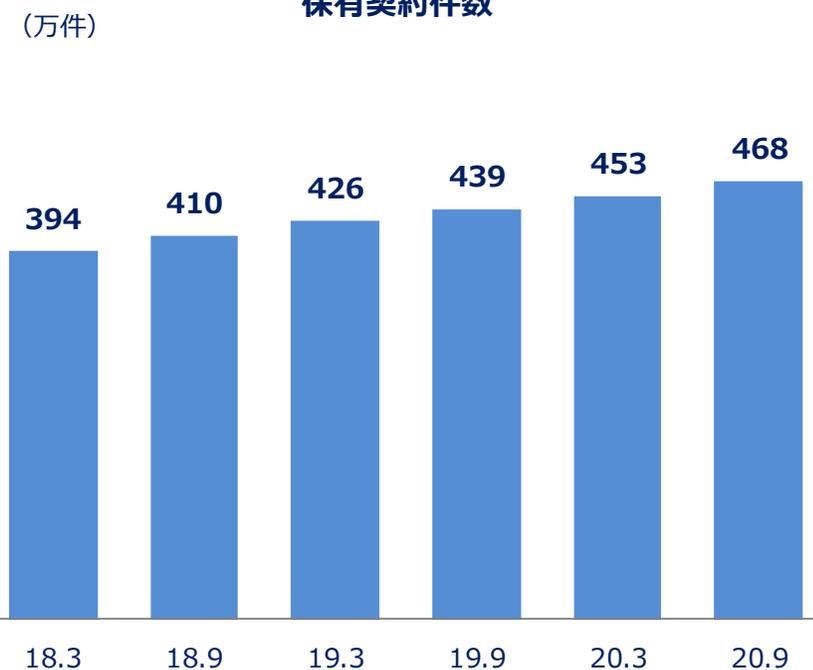
セグメント利益



セグメント資産・ROA

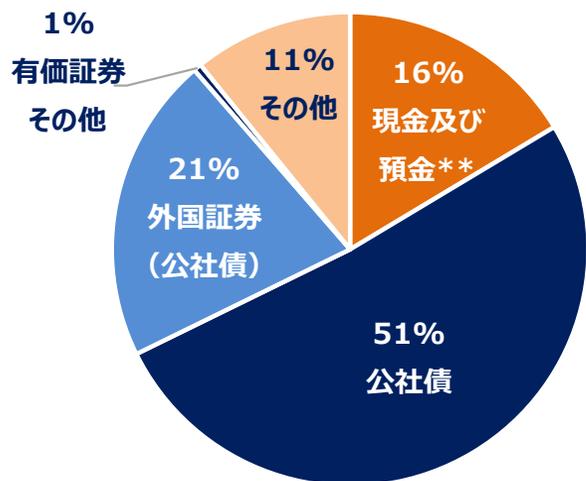


オリックス生命の個人保険保有契約件数

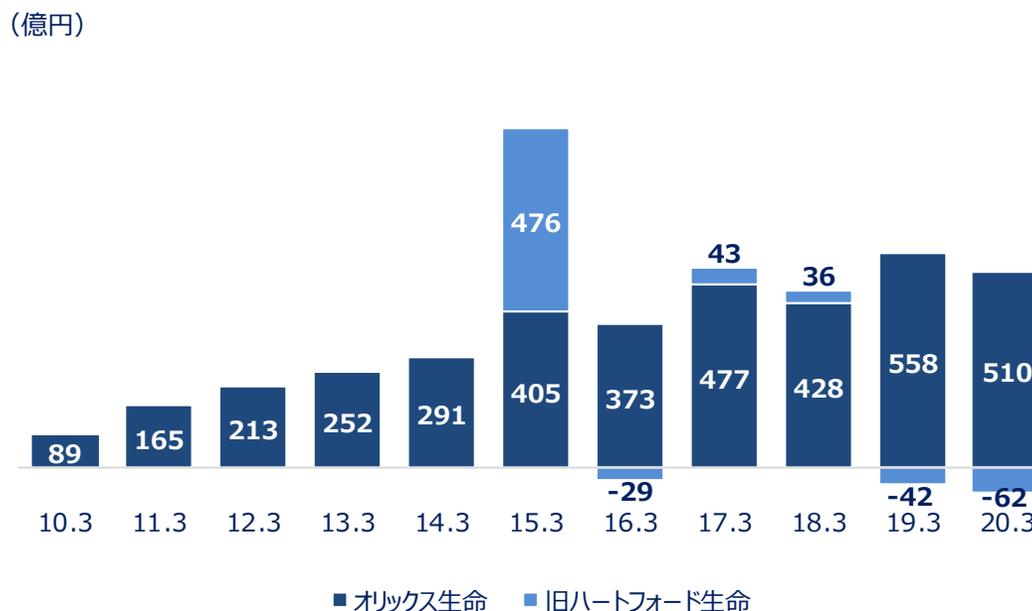


- 「シンプルでわかりやすいこと」「合理的な保障をお手頃な価格で提供すること」をコンセプトに、お客さまのニーズに応える商品ラインアップを拡充
- 4種類の販売チャネル（保険代理店、金融機関代理店、通信販売、オリックス生命社員による対面コンサルティング）を横断してお客さまへ最適な商品、サービスを提供するオムニチャネル化を推進

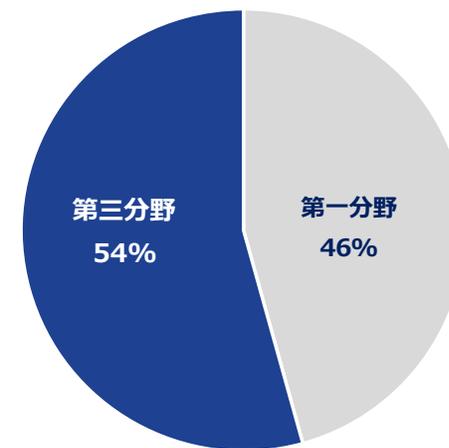
一般勘定資産の内訳*（20.3期末）



セグメント利益の推移*



保有契約（年換算保険料）（20.3期末）



* オリックス生命 決算開示資料にて公表の数値（日本会計基準）
 **セグメント資産には現金及び預金は含まれていません

* 15年3月期は、旧ハートフォード生命取得に伴うバーゲンパーチェス益を計上

・第一分野（死亡保障など）
 ・第三分野（医療保険・がん保険など）

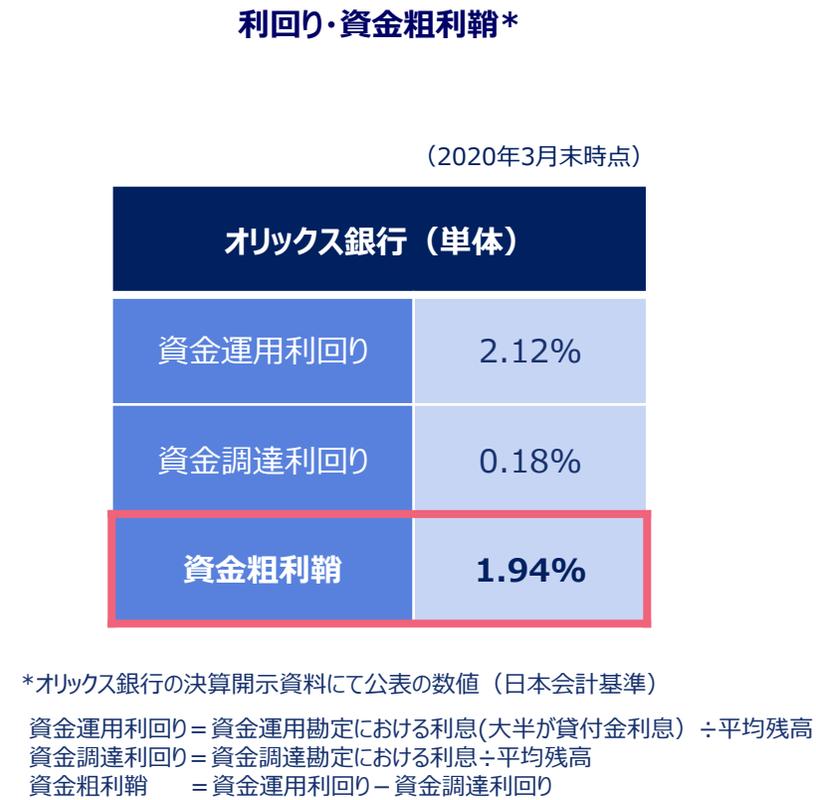
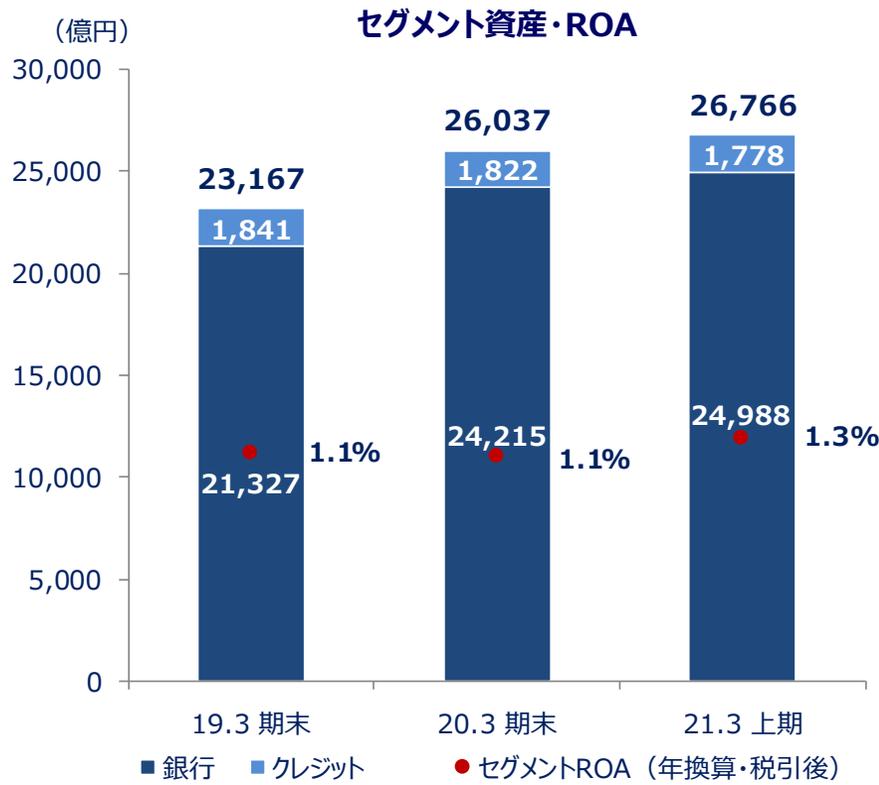
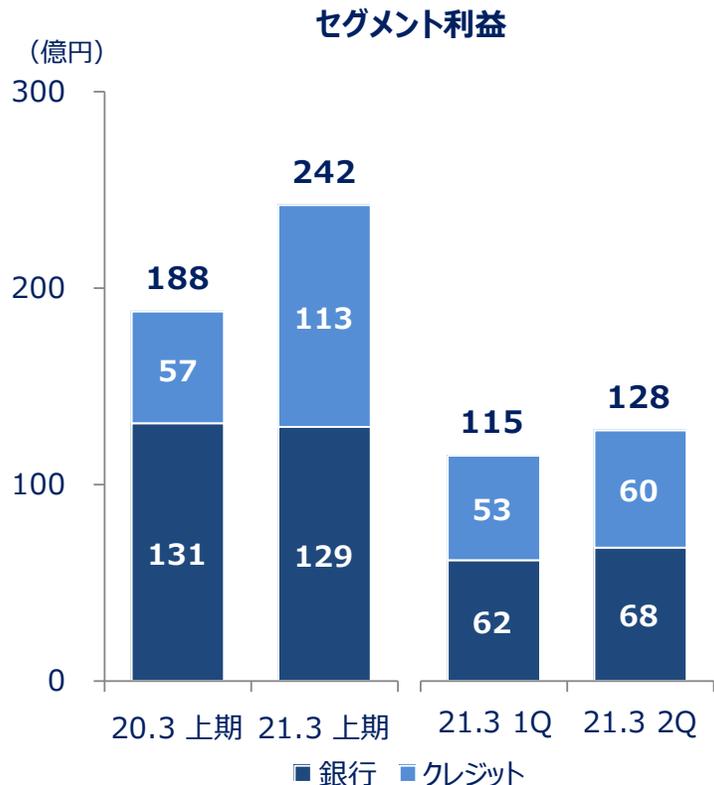
セグメント別実績 (6) 銀行・クレジット

上期セグメント利益：242億円 前年同期比 +55億円 (+29%)

- ✓ 銀行は、優良な資産の積み上げにより、安定した利益を計上
- ✓ クレジットは、信用損失費用の減少もあり、増益

セグメント資産：26,766億円 前期末比 +729億円 (+3%)

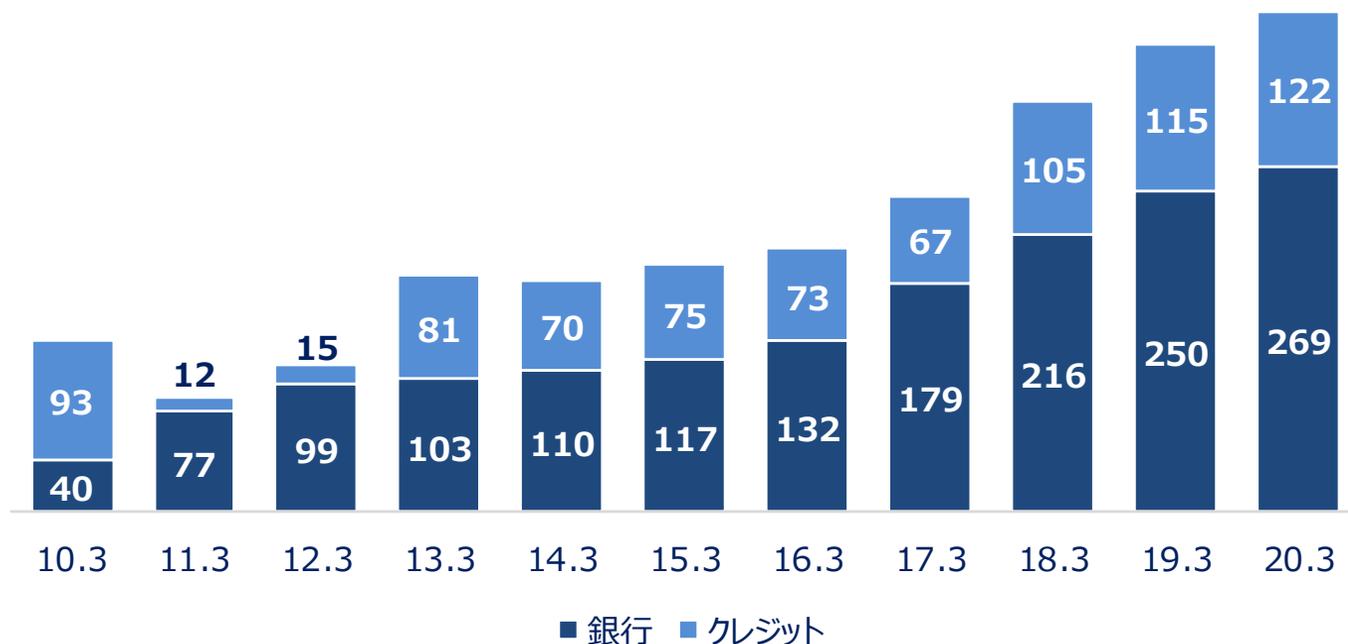
- ✓ 銀行は、非対面営業を活用しながら投資用不動産ローンの需要を取込み増加
- ✓ クレジットは、需要減少に伴い、貸付金残高が減少



- 銀行は、投資用不動産ローン、カードローン、信託商品や投資信託など特色のある商品・サービスを提供
店舗網やATM、決済機能を持たず、原則固定費をかけないビジネスモデル
- クレジットは、ローン、信用保証、モーゲージバンクの3つの柱で、リテール向けの事業を展開

セグメント利益の推移

(億円)



(2020年3月末時点)

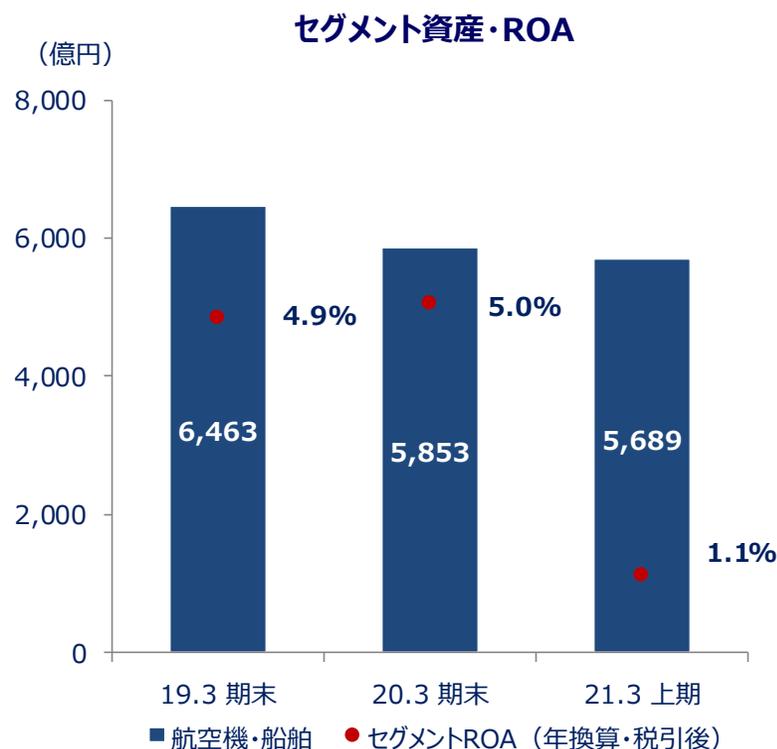
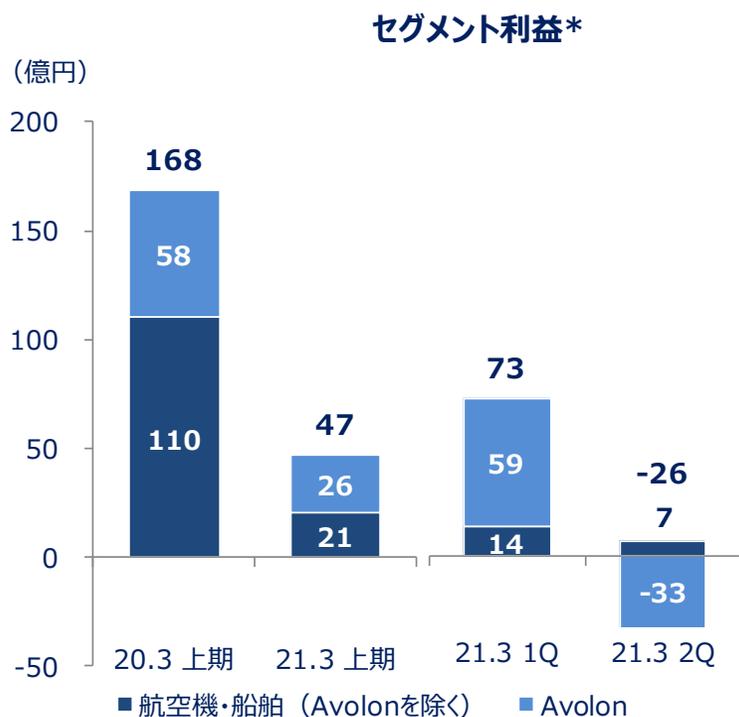
オリックス銀行 (単体) 主要指標*	
ROE	9.3%
不良債権比率	0.37%
格付	AA- (R&I)

*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値
(日本会計基準)

セグメント別実績 (7) 輸送機器

上期セグメント利益 : 47億円 前年同期比 ▲121億円 (▲72%) ✓ 航空機は、リース収入や売却益の減少により減益 (前期に機体を売却した影響を含む) ✓ Avolonは、取込利益の減少により減益	セグメント資産 : 5,689億円 前期末比 ▲164億円 (▲3%) ✓ 為替影響▲154億円を除くと、横ばい
--	---

航空機リース事業 (2020年9月末時点)



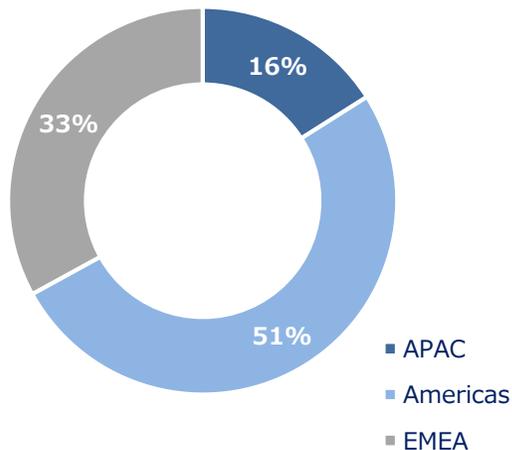
	オリックス 航空機リース事業	Avolon
業歴	42年 ファイナンスリースから開始 (1991年ORIX Aviation設立)	10年 (2010年設立)
ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> 中古マーケットでのトレーディングが主力 第三者に対する機体購入のアレンジメントやアセットマネジメントサービスに強み 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機メーカーに大口発注 発注機のリースに強み
オリックス出資比率	100%	30% (2018年11月取得)
格付	S&P : 最上位Strong (サービサー格付)	Fitch : BBB- Moody's : Baa3 S&P : BBB-

*Avolonのセグメント利益は、米国会計基準に組み替えを実施しているため、Avolonが国際会計基準に基づき公表している数値とは異なります

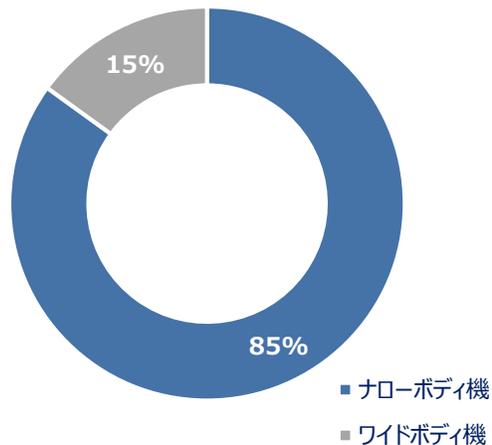
航空機リース事業について

オリックス 航空機リース事業

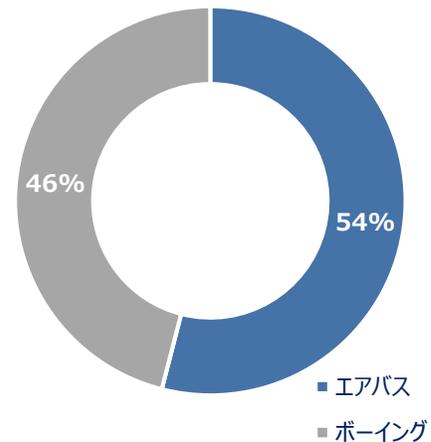
地域分布
(簿価ベース)



機種分布
(機数ベース)

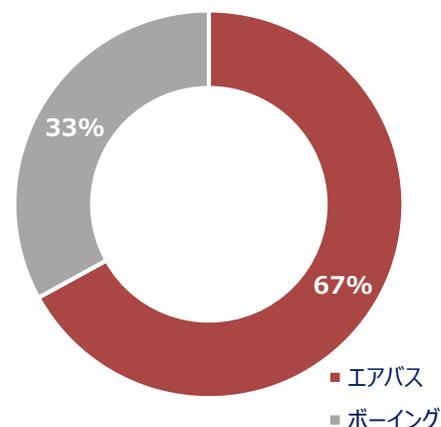
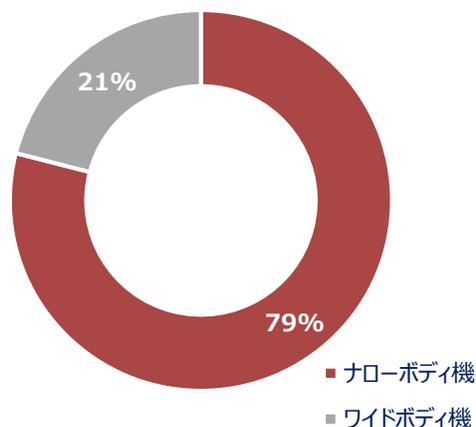
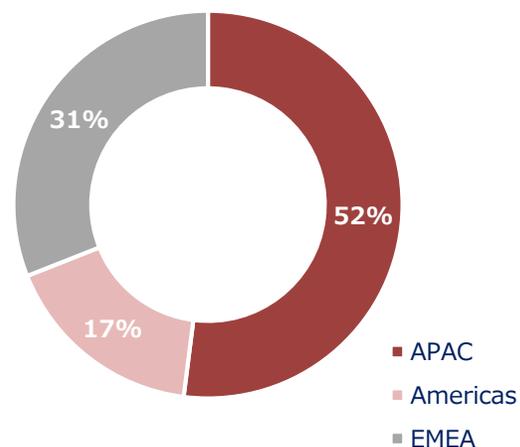


メーカー分布
(機数ベース)



保有機数	72機	発注機数	0機
平均機齢	5.9年		
平均残リース期間	6.8年	管理機数	135機

Avolon



保有機数	489機	発注機数*	286機
平均機齢	5.3年	*メーカー発注のキャンセル等により2019年12月末時点の400機から減少	
平均残リース期間	6.8年	2021年末までの発注機は全機リース契約締結済み ボーイング737MAXでレシー確保が必要となるのは2024年以降	

2020年9月末時点

セグメント別実績 (8) ORIX USA



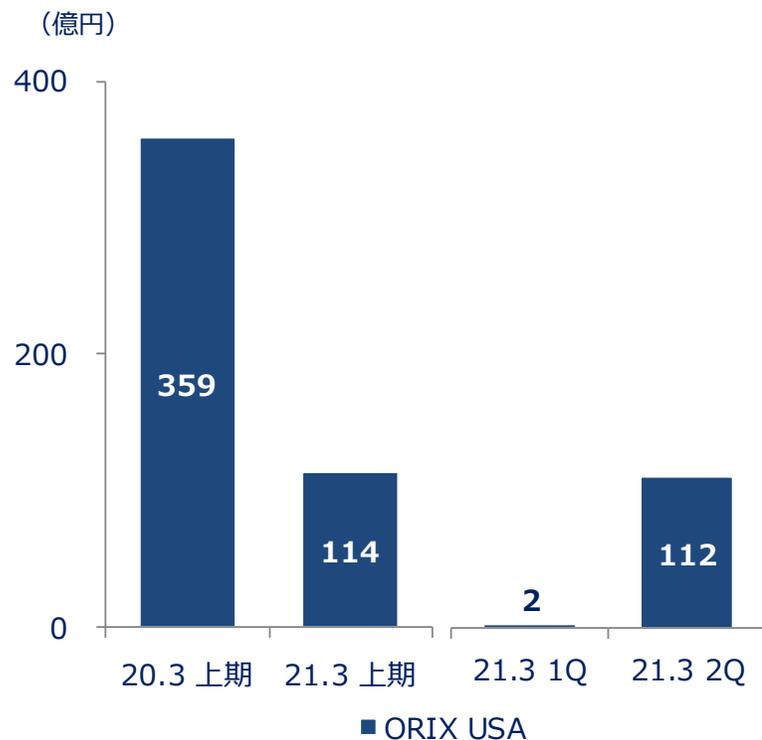
上期セグメント利益 : 114億円 前年同期比 ▲245億円 (▲68%)

- ✓ 信用損失費用の縮小およびファンド評価損益の改善により、1Qに比べ大幅に増益。ORECのオリジネーションフィー増加
- ✓ 前期はHoulihan株式の売却益を計上

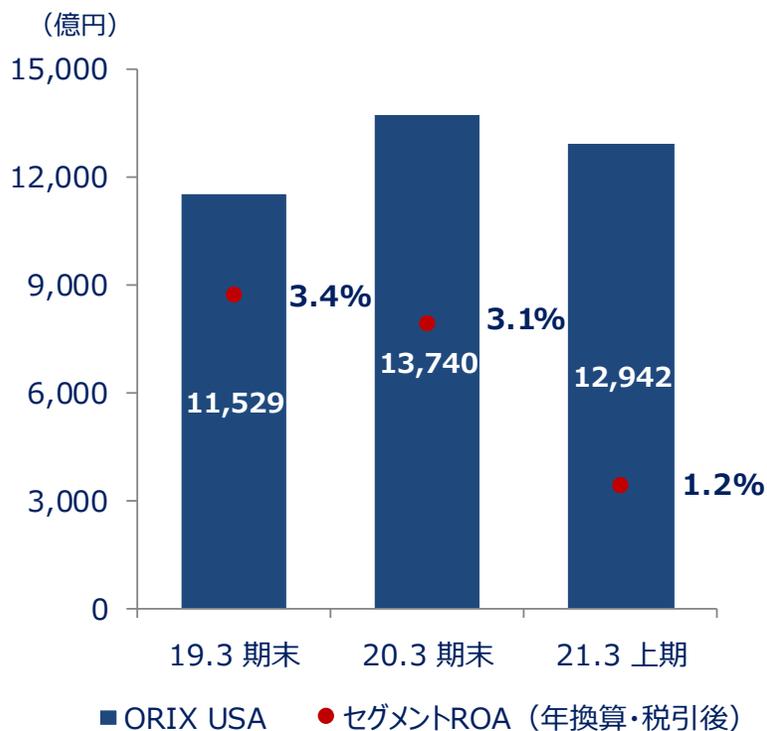
セグメント資産 : 12,942億円 前期末比 ▲798億円 (▲6%)

- ✓ AUMは順調に増加 (2020年9月に、Boston Capitalの運用資産の買収を発表)

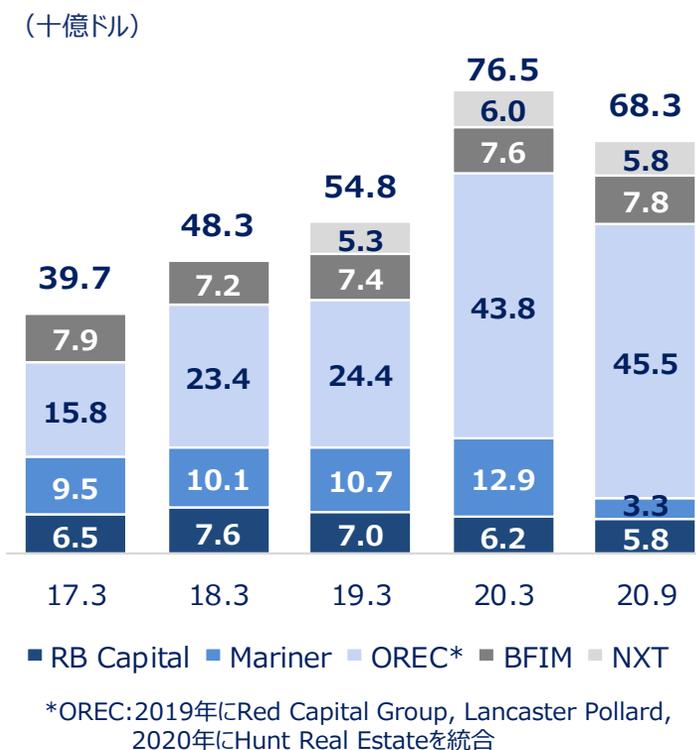
セグメント利益



セグメント資産・ROA

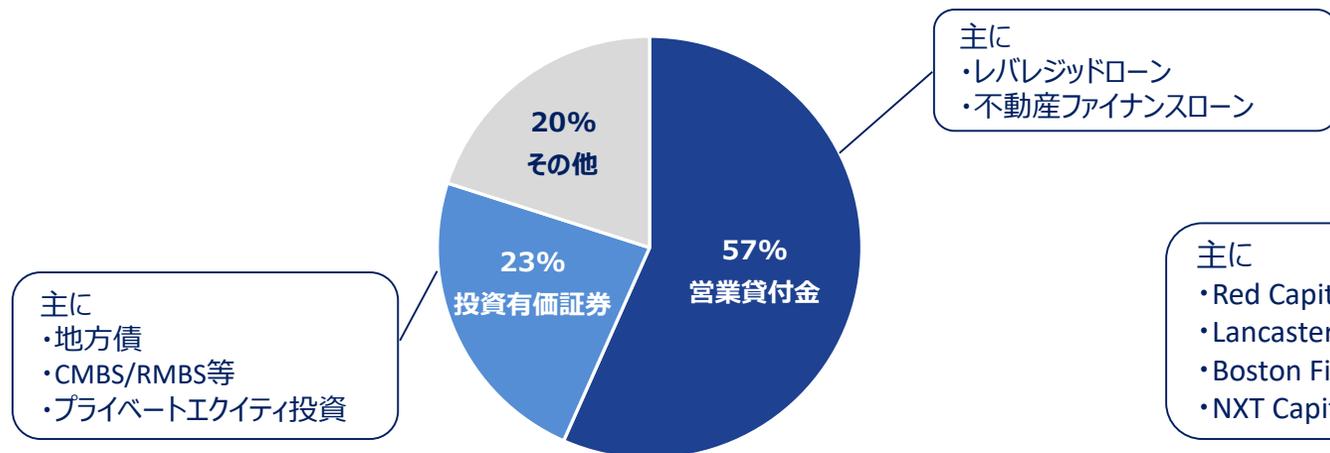


AUMの推移

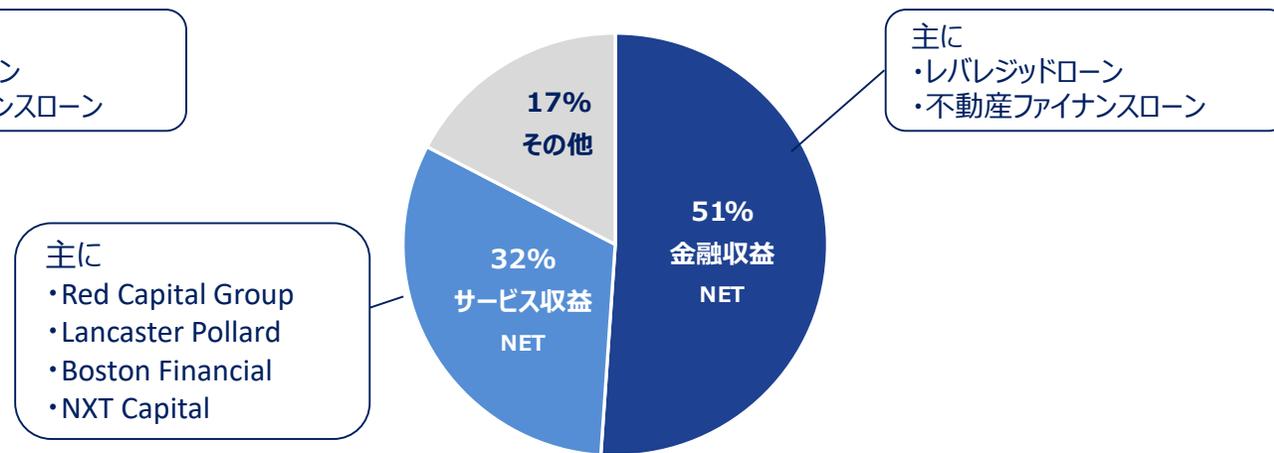


セグメント事業内容：米州における金融、投資、アセットマネジメント

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET*（20.3期）



*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

主な買収企業	主な事業内容	買収時期	持分比率
Hunt Real Estate Capital, LLC*	ローン組成、サービシング	2019/12	100%
NXT Capital Group, LLC	ローン組成、資産運用	2018/8	100%
Lancaster Pollard Holdings, LLC*	ローン組成、サービシング	2017/9	100%
RB Capital S.A	不動産証券化、資産運用、不動産開発・投資	2016/12	67%
Boston Financial Investment Management, LP	ファンド組成・運用	2016/7	100%
RED Capital Group, LLC*	ローン組成、サービシング	2010/5	100%

2020年9月、Boston Financialを通じて、**Boston Capital**のLIHTCを対象とする運用資産（77億ドル）の取得を発表

*2019年にRed Capital Group, Lancaster Pollard, 2020年にHunt Real EstateをORECIに統合

セグメント別実績 (9) ORIX Europe



上期セグメント利益 : 163億円

前年同期比 ▲4億円 (▲2%)

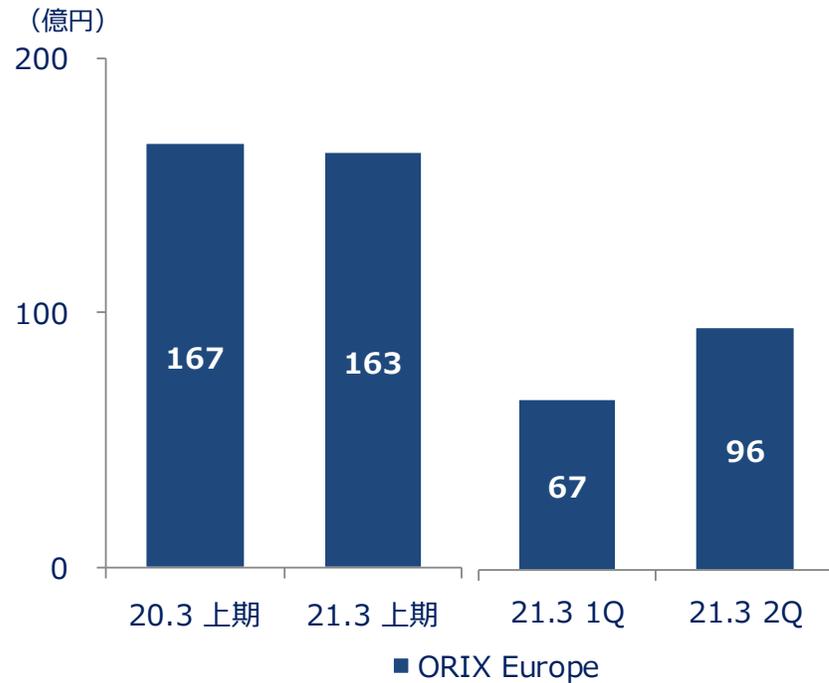
- ✓ AUMの回復により、前Q比増益
- ✓ 比較的フィーの高い商品へのシフトも見られる

セグメント資産 : 3,187億円

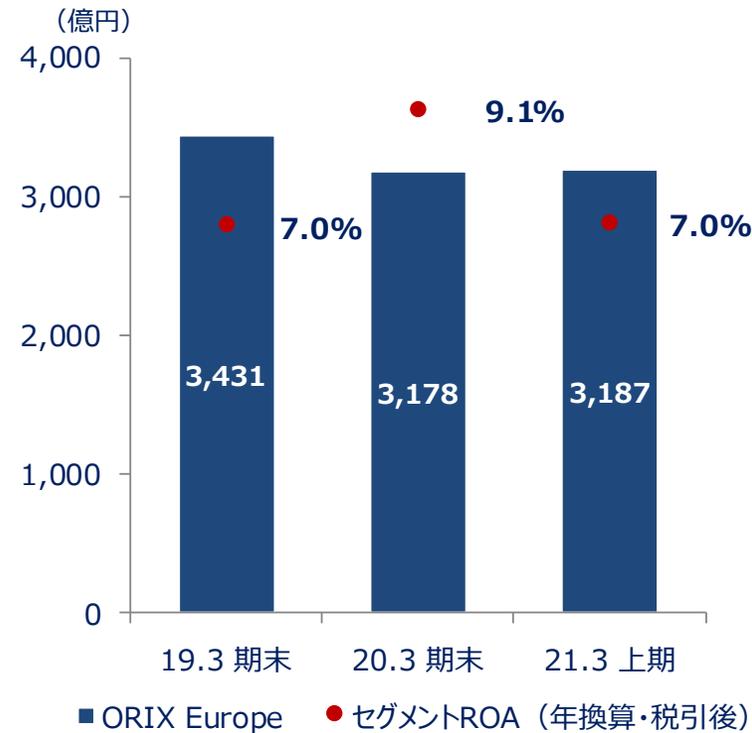
前期末比 +8億円 (横ばい)

- ✓ 市場の回復に伴い、AUMは緩やかに増加

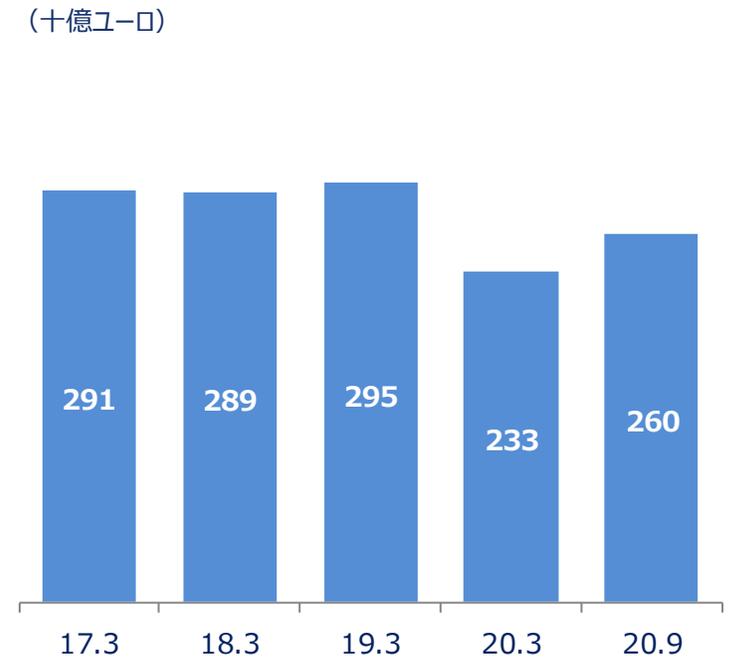
セグメント利益



セグメント資産・ROA

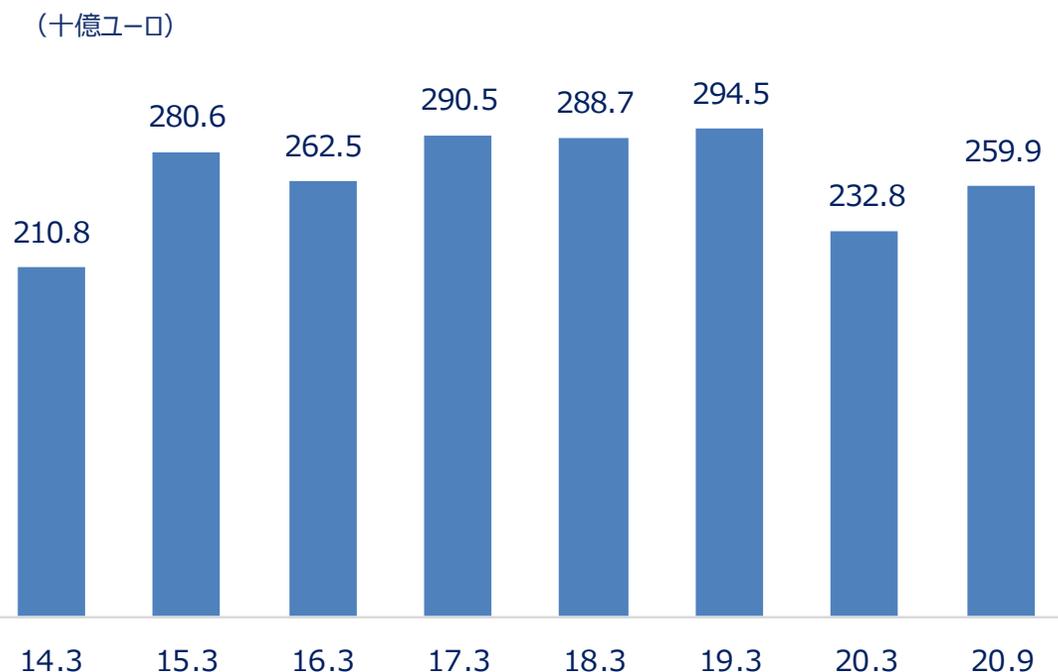


AUMの推移



セグメント事業内容：株式・債券のアセットマネジメント

過去のAUM推移*



*オリックスが、ロベコの買収を完了したのは、2013年7月

主な資産運用会社の概要

	本拠地	特徴	設立 (取得)
Robeco	ロッテルダム	株式・債券運用、サステナビリティ投資の資産運用会社	1929年 (2013年)
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)
Harbor Capital Advisors	シカゴ	運用会社選定を採用する投資信託会社*	1983年 (2013年)
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社 (CTA**)	1991年 (2013年)

* 株式・債券のミューチュアルファンドを組成し、ファンドごとに最適な運用会社（ファンド・マネージャー）を選定すること

**コモディティ・トレーディング・アドバイザー。ヘッジファンドなど、商品先物のみではなく、通貨、株価指数先物など広範な金融商品に分散投資して、顧客から預かった金融資産を運用する企業や運用者

セグメント別実績 (10) アジア・豪州

上期セグメント利益 : 46億円

前年同期比 ▲146億円 (▲76%)

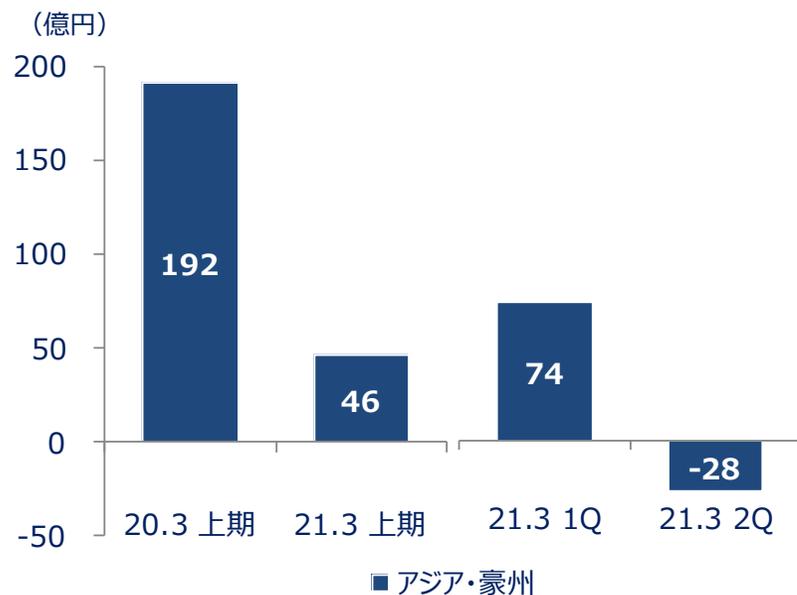
- ✓ 中国のPE投資先に対して減損を計上するも、現地法人のベース利益は堅調
- ✓ 信用損失費用は1Q比で減少

セグメント資産 : 9,929億円

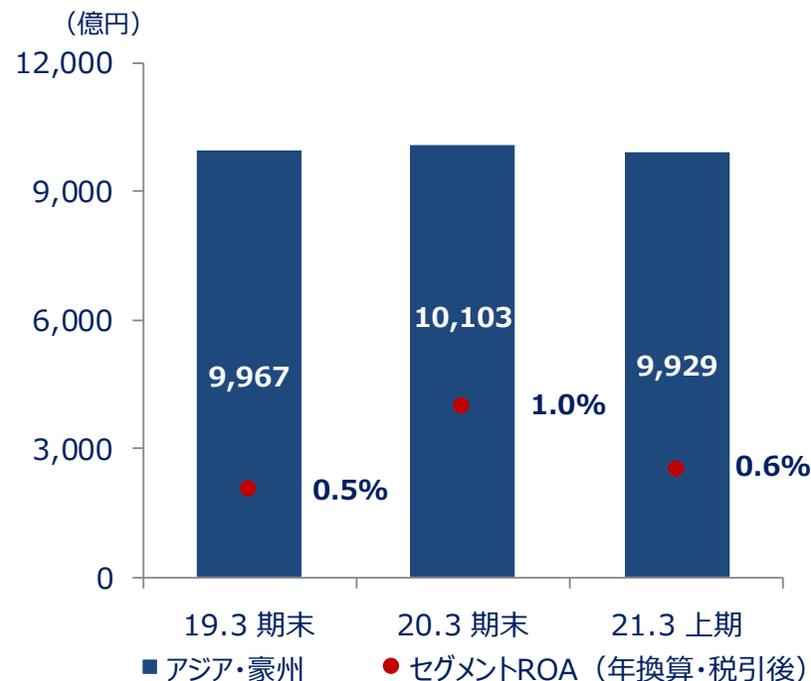
前期末比 ▲173億円 (▲2%)

- ✓ 為替影響+183億円を除くと、前期末比▲357億円
- ✓ 中国最大の飲料水メーカー「農夫山泉」へ投資

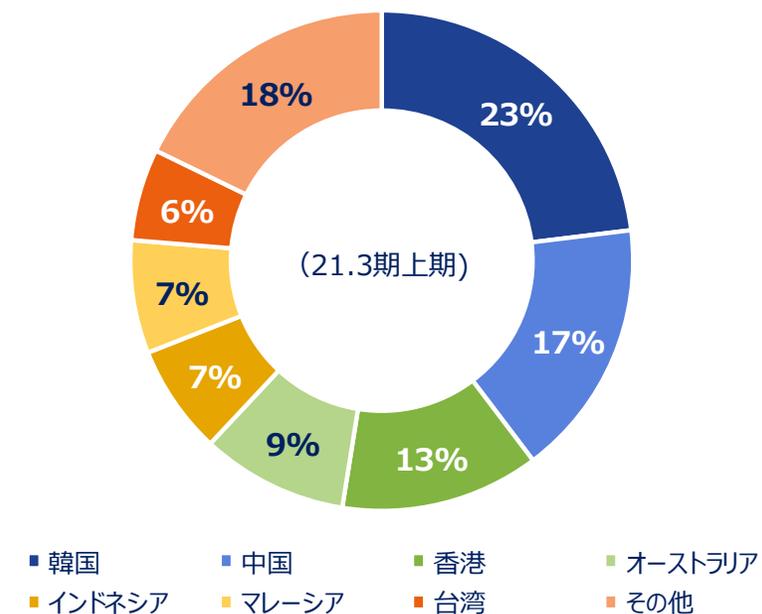
セグメント利益



セグメント資産・ROA

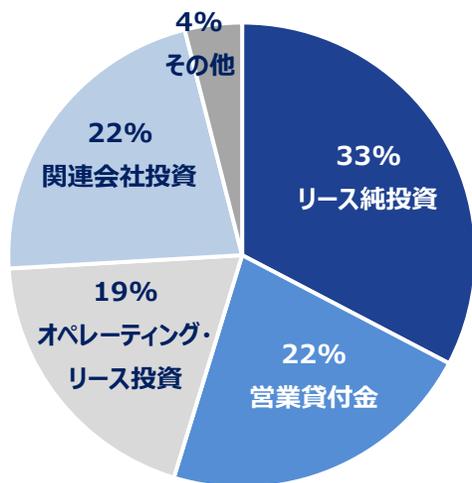


セグメント資産/地域別

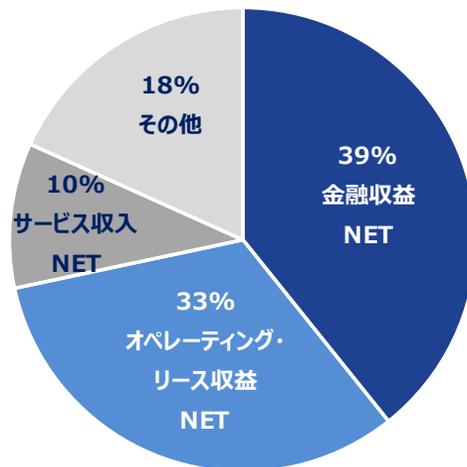


セグメント事業内容：アジア・豪州における金融、投資

セグメント資産（20.3期末）



セグメント収益 NET*（20.3期）



*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

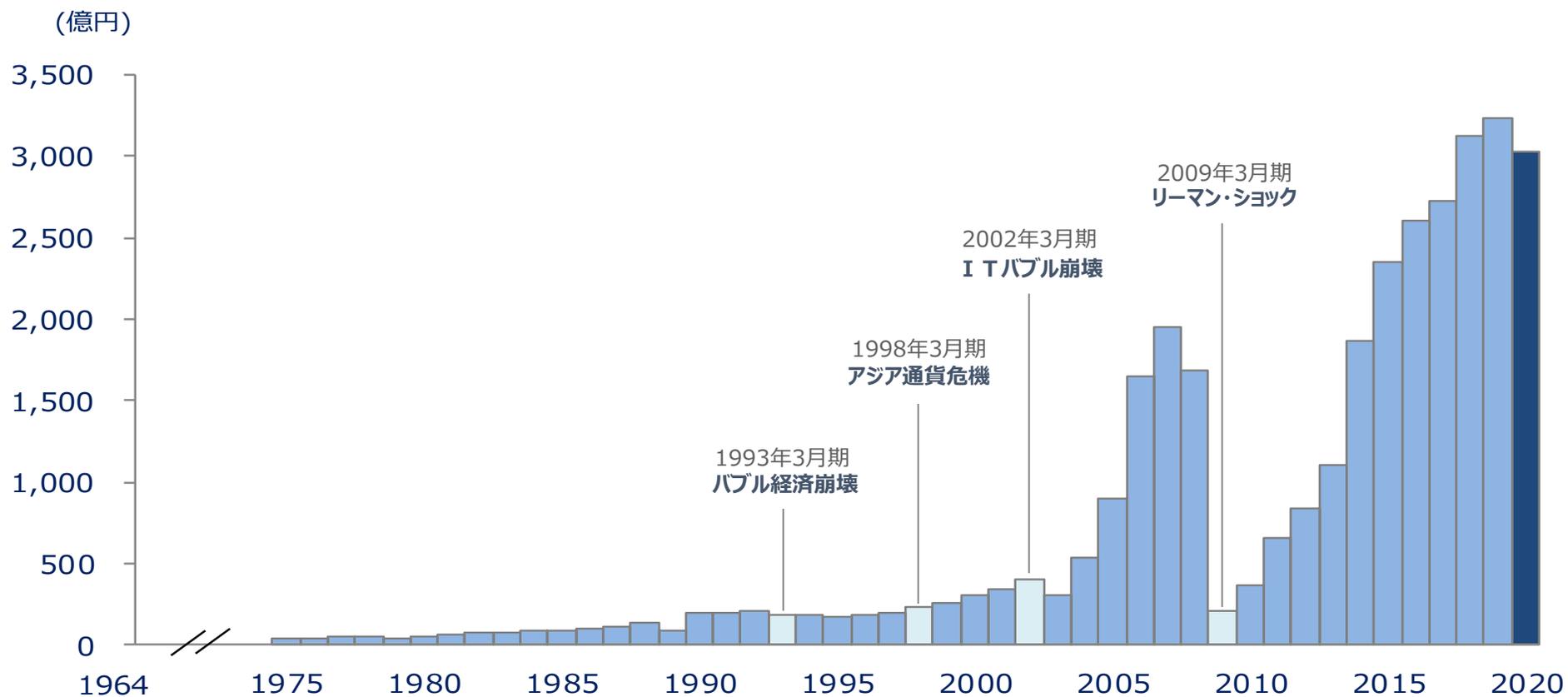
主な現地法人（アジア・豪州）

企業名	地域	事業内容	設立
ORIX Asia Limited	香港	リース、自動車リース、融資、銀行	1971/9
ORIX Leasing Malaysia Berhad	マレーシア	リース、融資	1973/9
PT. ORIX Indonesia Finance	インドネシア	リース、自動車リース	1975/4
ORIX Australia Corporation Limited	オーストラリア	自動車リース、トラックレンタル	1986/7
ORIX Auto Infrastructure Services Limited	インド	自動車リース、レンタカー、リース、商用車担保ローン、不動産担保ローン	1995/3
ORIX Capital Korea Corporation	韓国	自動車リース、リース、融資	2004/2
ORIX China Corporation	中国	リース、レンタル	2005/8

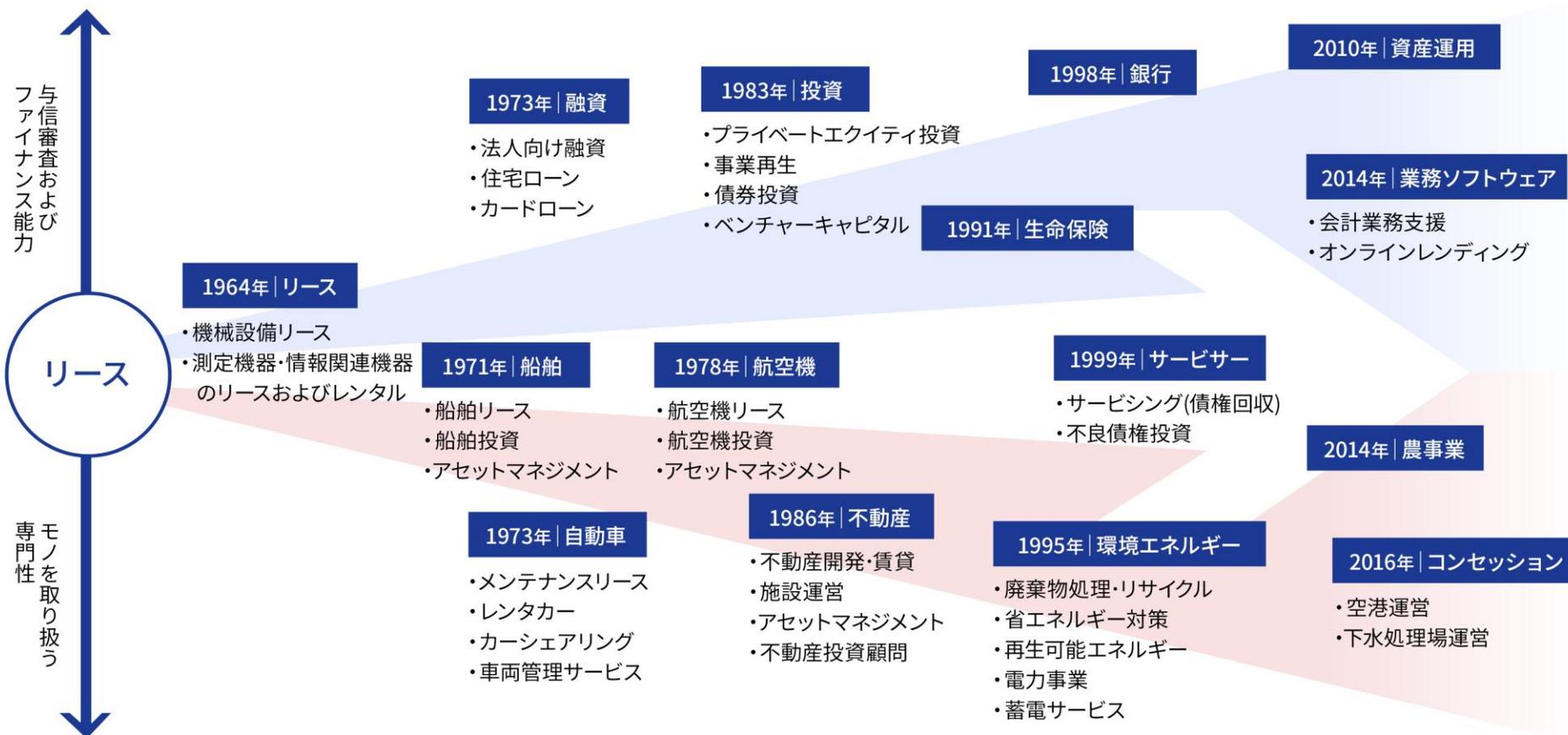
補足資料

- ✓ 設立初年度を除き、55年間毎期黒字を計上

当社株主に帰属する当期純利益



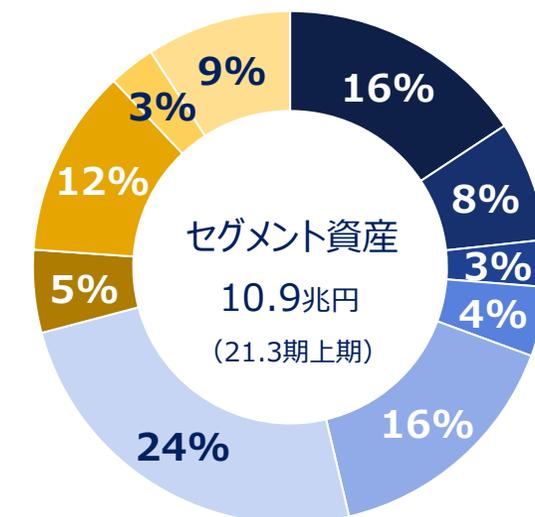
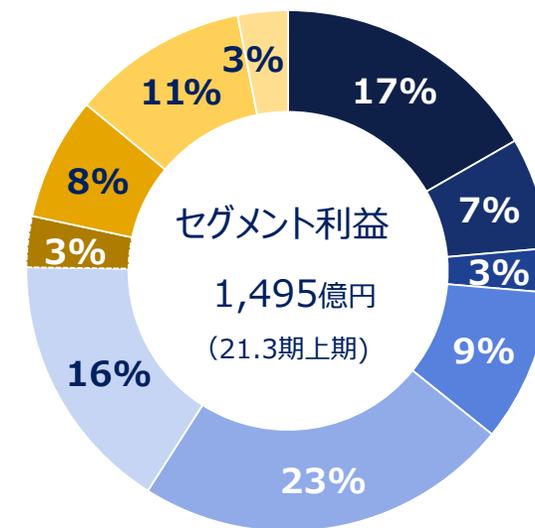
✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



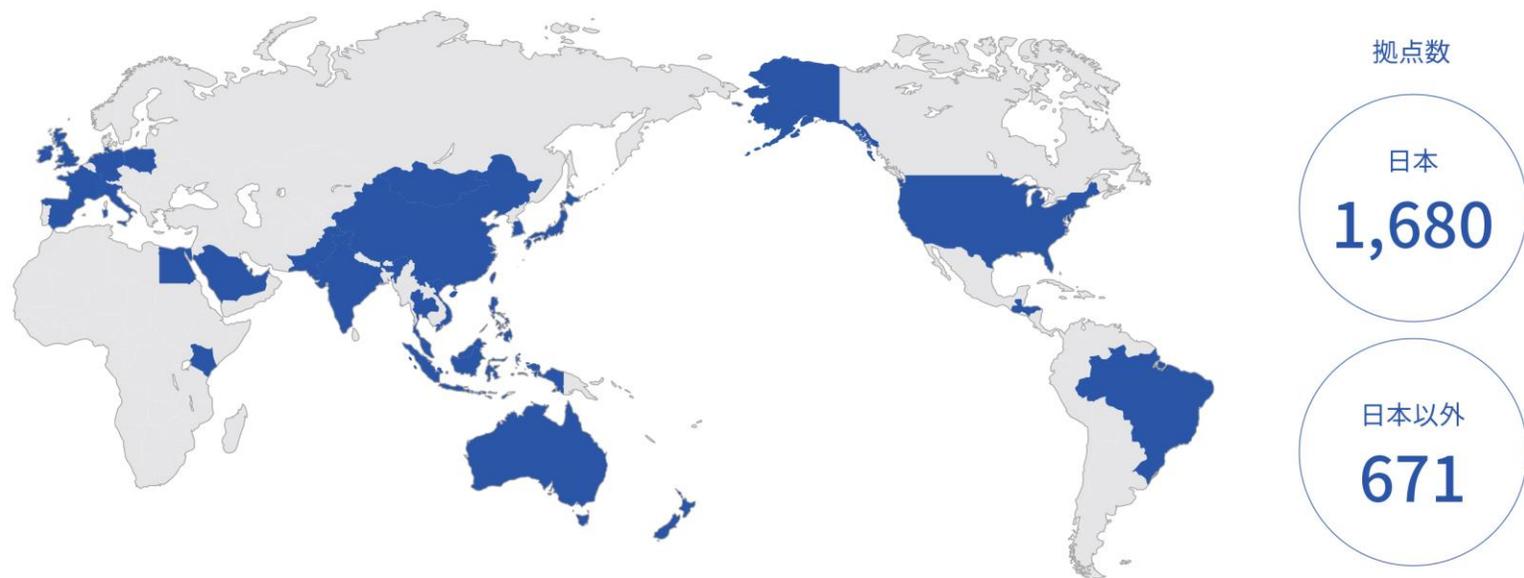
オリックスについて セグメント別の利益・資産の構成

✓ それぞれの事業が独自の強みを最大限に発揮し、相乗効果を生み出している

法人営業・メンテナンスリース	金融、各種手数料ビジネス、自動車および電子計測器・IT関連機器などのリースおよびレンタル、弥生
不動産	不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント
事業投資・コンセッション	企業投資、コンセッション
環境エネルギー	国内外再生可能エネルギー、電力小売、省エネルギーサービス、ソーラーパネル・蓄電池販売、廃棄物処理
保険	生命保険
銀行・クレジット	銀行、カードローン
輸送機器	航空機のリース・管理、船舶関連投融資
ORIX USA	米州における金融、投資、アセットマネジメント
ORIX Europe	株式・債券のアセットマネジメント
アジア・豪州	アジア・豪州における金融、投資



✓ 国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界34ヶ国・地域で事業を展開

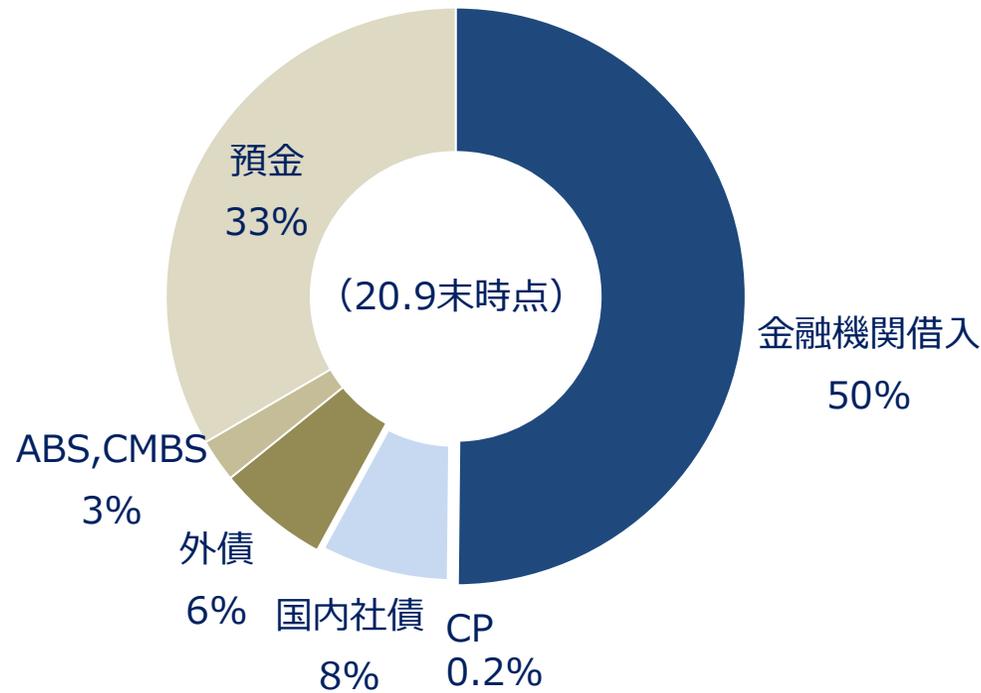


(2020年9月末日時点)

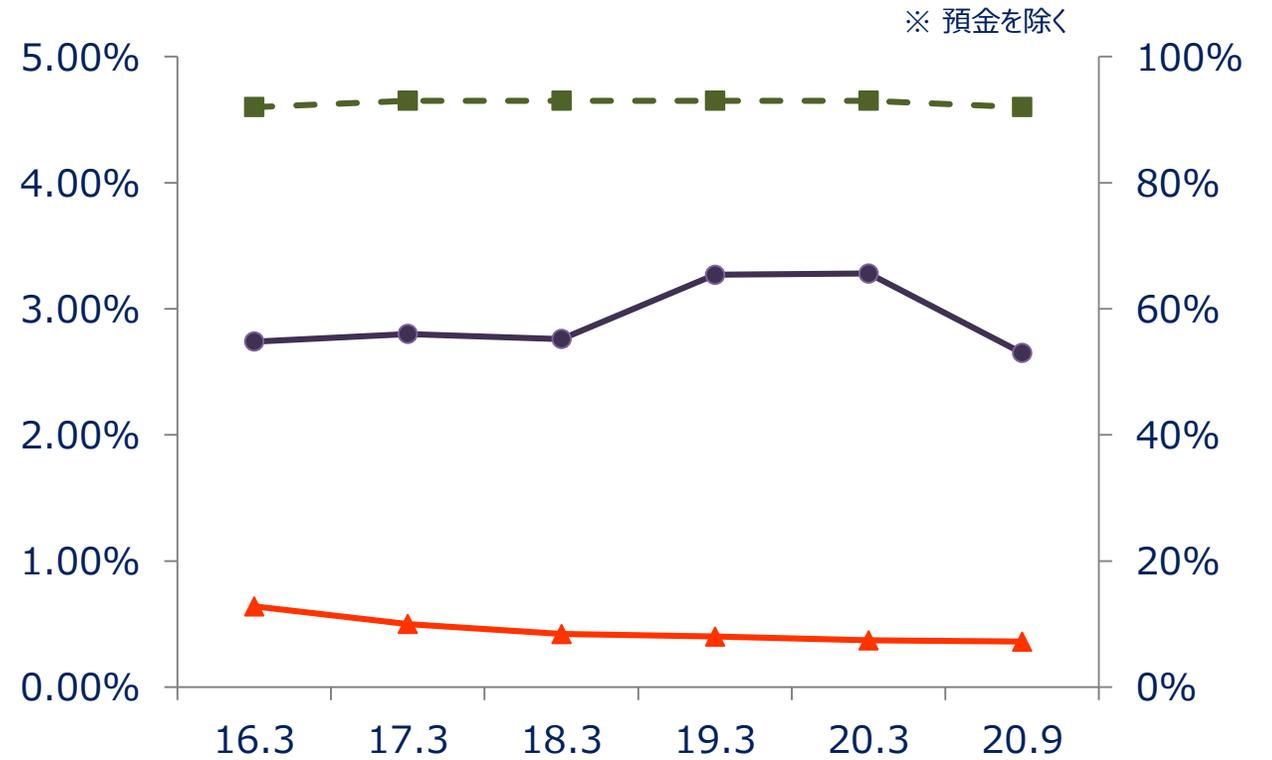
1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
グローバルネットワークの国・地域数				
7カ国・地域	12カ国・地域	18カ国・地域	26カ国・地域	34カ国・地域
アジアでのリースを中心とした グローバルネットワークの拡大		グローバルネットワークの拡大継続 航空機関連やエクイティ投資への事業が多角化		ロベコ買収や、環境エネルギー事業の展開を 通じてさらに事業分野が拡大

✓ 多様化された資金調達。高い長期借入比率を維持しながらコストをコントロール

資金調達の内訳



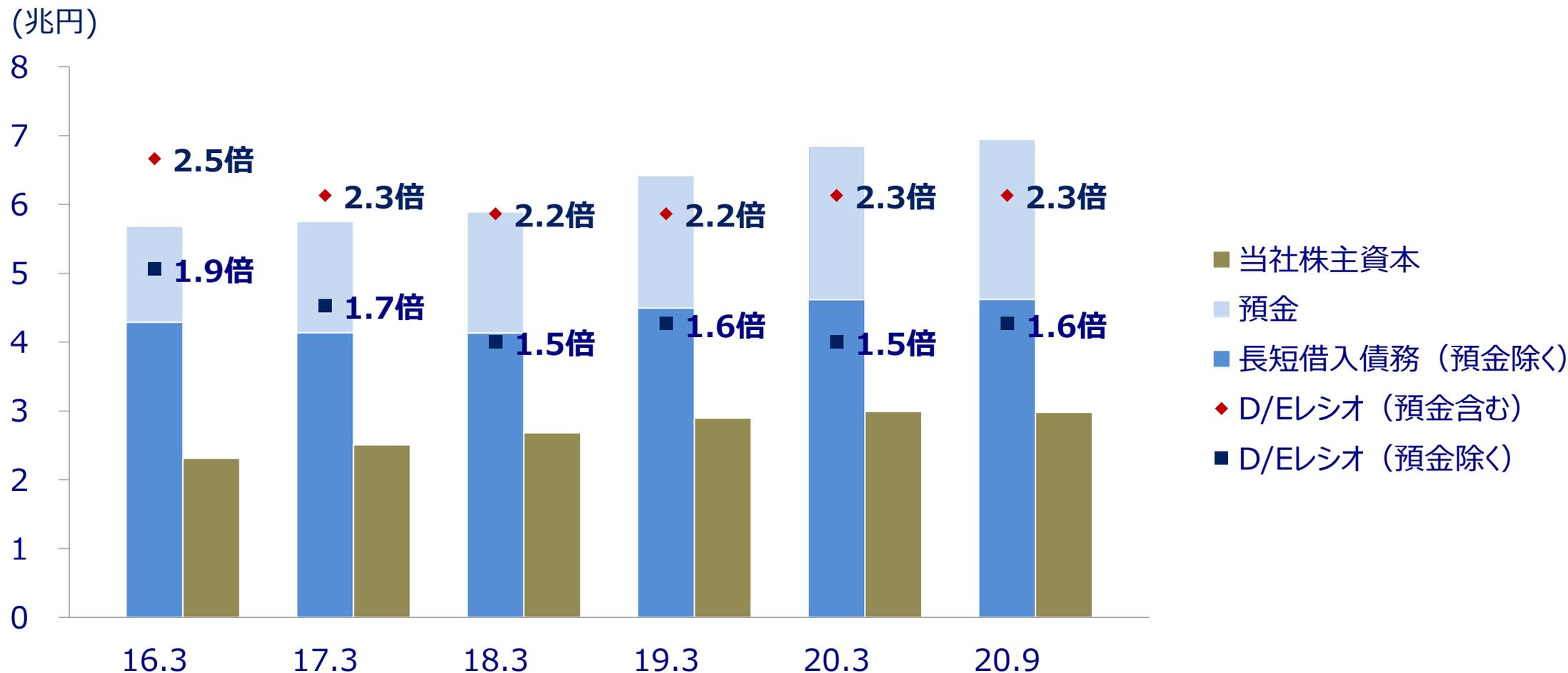
コスト・長期借入比率^(※)の推移



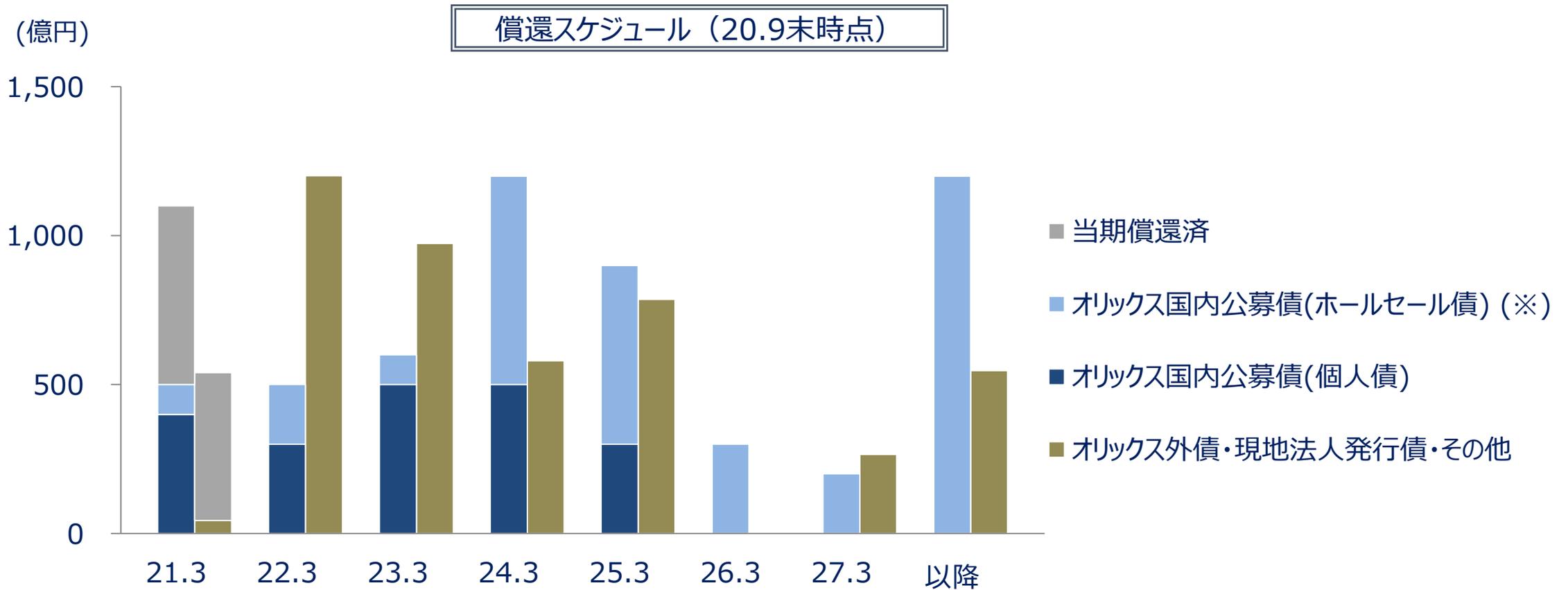
▲ 資金調達コスト (円貨・左軸) ● 資金調達コスト (外貨・左軸) ■ 長期借入比率 (右軸)

✓ D/Eレシオは低位で推移

D/Eレシオの推移



✓ 償還期日の分散を通じ、各期償還額の平準化を実現



※オリックス国内公募債（ホールセール債）のうち1,000億円は、2020年3月期に発行した公募ハイブリッド社債（劣後特約付社債、2080年3月期満期）であり、発行日から5年経過以降に600億円、10年経過以降に400億円の期限前償還が可能です

ポートフォリオの3分類

分類	主なリスク	ファイナンス	事業	投資
	資本負荷	クレジットリスク	低	運営リスク、事業リスク
			中～高	高

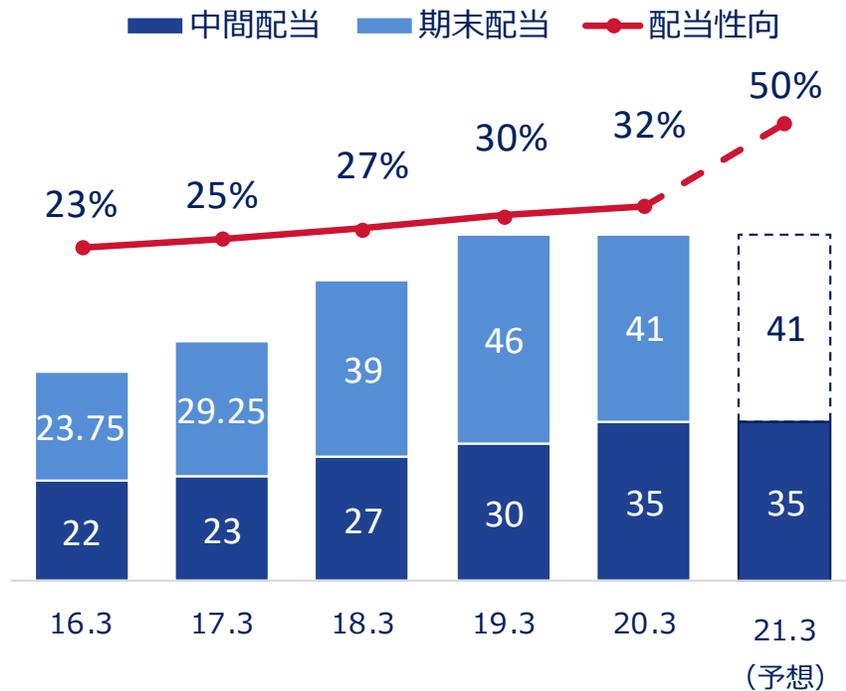
セグメント	国内	海外	環境・インフラ	金融サービス	メンテナンスサービス	その他	債権投資	現物投資	エクイティ投資
	法人営業・メンテナンスリース	リース 貸付金 フィービジネス				自動車 レンタル	弥生	サービサー	
不動産			施設運営 大京	アセットマネジメント				不動産投資	
事業投資・コンセッション			コンセッション						PE投資
環境エネルギー			環境エネルギー						
保険				生命保険					
銀行・クレジット	銀行 カードローン、保証								
輸送機器								航空機 船舶	
ORIX USA		リース 貸付金		アセットマネジメント			債券投資		PE投資
ORIX Europe				アセットマネジメント					
アジア・豪州		リース 貸付金							PE投資

株主還元について

- ✓ 今期の通期配当額は、一株当たり76円もしくは配当性向50%、いずれか高い方
- ✓ 自社株買いは、前回未消化分の442億円を取得予定

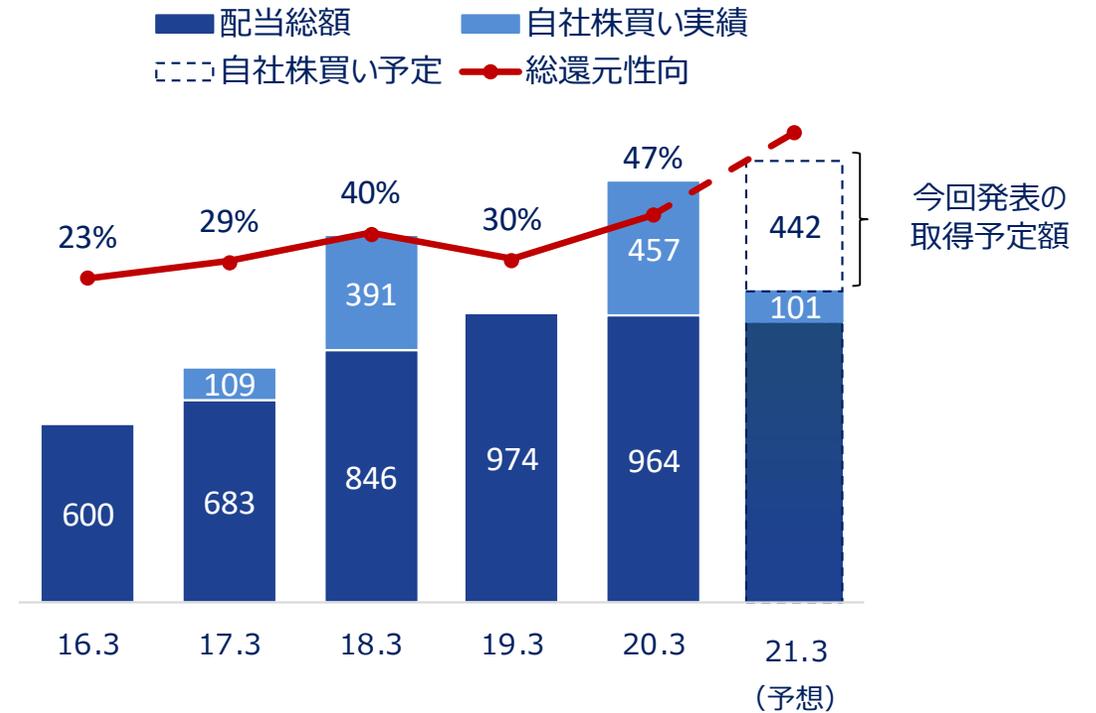
1株あたり配当金と配当性向

(単位：円)



自社株買いと総還元性向

(単位：億円)

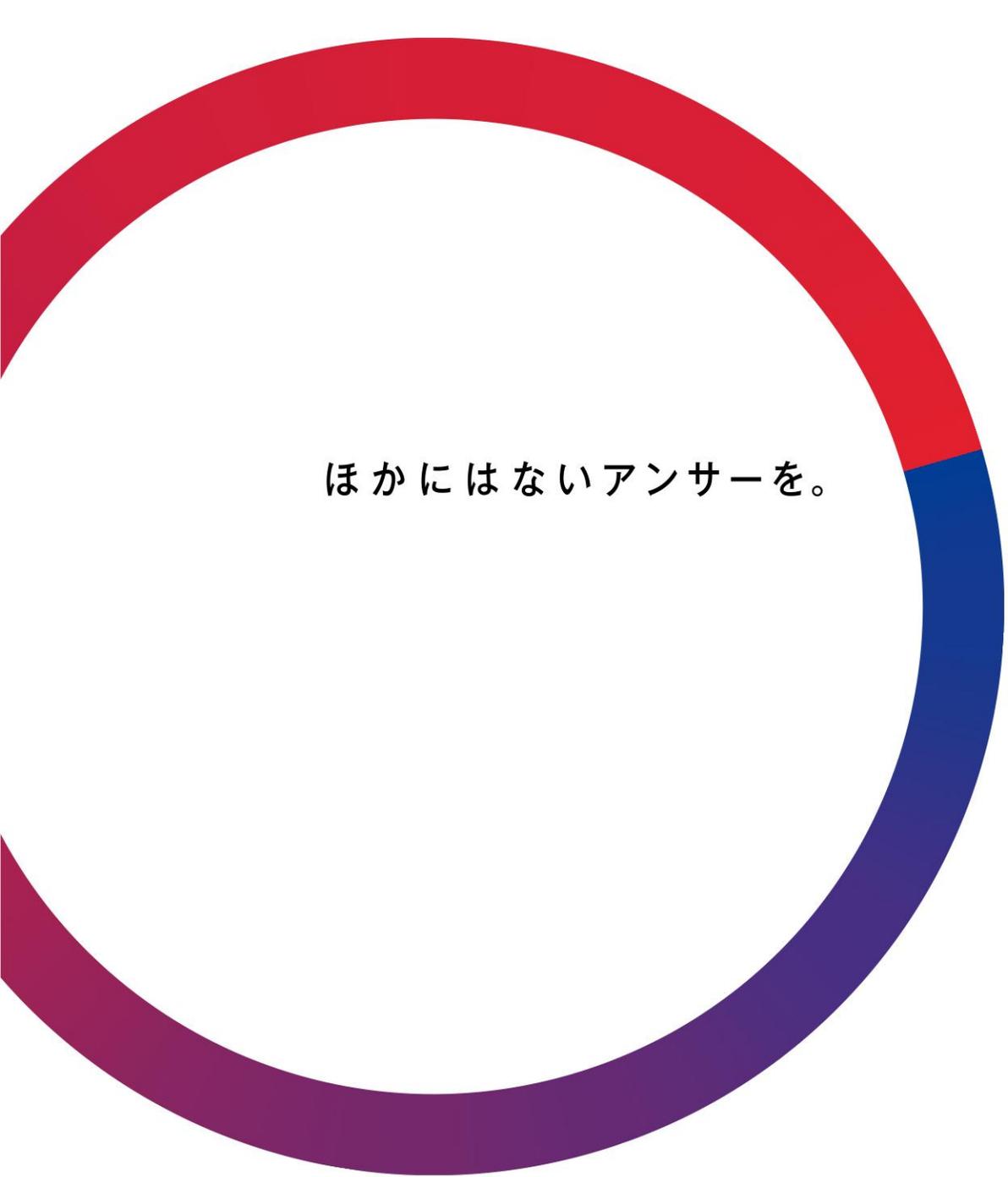


本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 経営計画部

〒105-6135 東京都港区浜松町2-4-1

TEL : 03-3435-3121

FAX : 03-3435-3154